

## 論 文

## 榎本武揚と殖民協会 (1)

角 山 幸 洋

## 1. はじめに

とくに榎本武揚は、この「殖民協会」の設立に意欲をもやしていたとって過言ではない。そのことは、とりもなおさずこれまで科学系統の学会である「東京地学協会」「東京気象協会」「電気学会」などの設立に関与していたのであるが、そのような自然科学系統とおなじように移民(殖民)についても学会(実際には協会)を設立することを予定したのではなからうか。

しかしながら、この目論見は同じであったも、そこには人間が「自由をもとめて外国に移住」することには、科学的な所作がどうしても馴染まないであった。

前稿において、とくに「榎本武揚とメキシコ殖民移住」の経営部分を論じたのであるが<sup>1)</sup>、その時、殖民の啓蒙団体である「殖民協会」を、イギリスの制度にみならって設立したのであるが、ここではその民間における活動状況を、おもに検討することとし、其設立にあたり、またその経営について、まったく個人的立場にたって、経済的にも、あるいは政治的にも努力をおしまなかった榎本武揚の姿を、資料にもとづいて検討することにしたい。

その主眼とするところは、榎本武揚自身が、なにを「殖民協会」に求めたか

1) 「榎本武揚とメキシコ殖民移住」『経済論集』第34巻第6号、昭和60年2月  
「榎本武揚とメキシコ殖民移住」『経済論集』第35巻第1号、昭和60年5月  
「榎本武揚とメキシコ殖民移住」『経済論集』第35巻第2号、昭和60年6月  
「榎本武揚とメキシコ殖民移住」『経済論集』第35巻第4号、昭和60年11月  
「榎本武揚とメキシコ殖民移住」『経済論集』第35巻第5号、昭和61年2月

である。たしかに設立の経過をみると、イギリスの王立協会に準拠する科学組織として「東京地学協会」ほか、がすでに存在していた。また王立の「植民協会」が、すでにイギリスには存在したのである。このような状勢のなかにおいて、どのように殖民を目的とする民間の協力団体としての協会を夢みたのであろうか。

## 2. 殖民協会の構想

### 1) 移住関係機関の設置

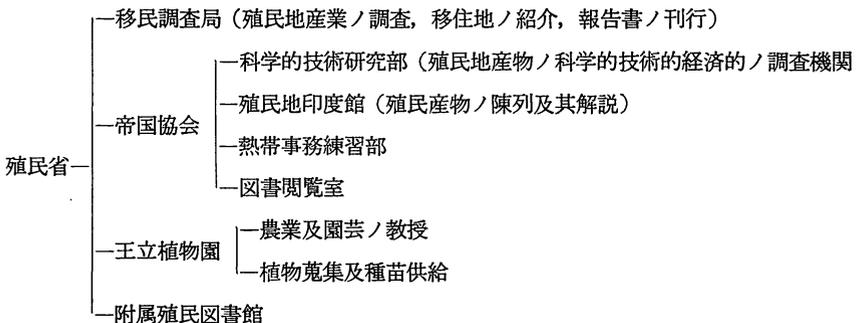
榎本武揚は外務大臣に就任したのち、大方の反対を押し切って大臣官房のなかに移民課を設置するが、来將の政府組織の構想をどのようにみていたのであろうか。端的にいうならば前述したようにイギリスの殖民教示局にならい、まず「殖民省」を設置することであったが、この設置問題は明治29（1896）年の段階になって内閣内部において話題となっていたものであった。しかし外務大臣に就任するときは、大臣官房に「移民課」を設置することにも反対するものが多かったが、この理由は少数の人たちが外国に出掛けていくことに政府がなにも、それに援助の手を差し延べる必要があるのか、という棄民の風潮がこの時分からみることができるのである。そのため、やむをえず大臣官房内に自己の権限範囲において移民課を設置せざるを得なかったのである。

このような政府構想としての海外移住構想は政府内において非常な反対に会い、また外務大臣を辞職するに際して、これを殖民協会の設置という民間団体に切り換えざるを得なかったのである。この設置意図については、殖民協会の発会式における彼の演説により明らかである。政府部内に移住関係機関を設置すべきかは、その一国の殖民政策によるものである。榎本武揚が外務大臣のとき官房内に「移民課」を設置したのは、その広大な殖民意図にもとづくものであった。あるいは民間機関として移住を一般に啓蒙することの必要から「殖民協会」を結成することになるが、これも英国にある民間機関を参考にしている。また後のことになるが、明治29（1896）年ごろには台湾の領有から「殖民

省」設置が話題にのぼったことはあるが、拓殖省として現地開拓への統括省としての性格がつよく、移住を主目的とする「省」設置の決定は見る事がなかったのである。このことは財政的欠陥があったことは勿論であるが、政府には台湾の領有という問題に遭遇したとき「拓殖省」という行政官庁の設置で切り抜けることにしたのである。

大分のちのことはあるが、殖民協会では「殖民省」、あるいは「殖民局」の設置を外務大臣に要望するとともに「建議書」を提出しているが、このことは榎本武揚の以前からの構想であり、明治35(1902)年にもなってから打ち出されたものであるが、むしろ殖民協会は、最後の必要性を唱える機会であったのではないだろうか<sup>2)</sup>。

この時期においては、外国ではつぎのような殖民関係の政府、ならびに民間組織があったものとみてよい。これについて「各国ノ其殖民地ニ関スル施設概要」では、「国家ノ殖民的経営ノ発展ニ資スル為メ、中央殖民行政官庁直接之ヲ行フト之ト密接ノ関係ニ立テル団体之ヲ為ストノ別ハアレトモ、殖民上万般ノ事情ヲ調査シ之ヲ公衆ニ周知セシムルニ務メ、又移住者ヲ指示誘導スル機関ヲ具スルコト各殖民国皆然ラサルナシ」とし、イギリス・フランス・ドイツ・ベルギー・ポルトガルの政府組織をあげている<sup>3)</sup>。このうちわが国が参考にするため情報をとったイギリスについては、



2) 杉袴生「移民局設置の必要」『殖民時報』第100号 殖民協会 明治35年11月25日

3) 『日本及各国殖民地統計表』拓殖局 大正2年3月28日 9~10ページ。

〔私設〕 殖民協会（図書館、法律調査部、地図部、新聞部、講演部、商工業委員部、雑誌発行、科学及商工業博物館）

サッフオーク殖民農学校

ハーウィッチ殖民学校（殖民地經濟実務ノ教授）

シセター殖民農学校

タムウォース殖民農学校

倫敦熱帯医学校

リバプール熱帯医学校

榎本武揚は外務大臣に就任したのち、大方の反対をおしきって大臣官房のなかに、移民課を設置し、もとの部下であった安藤太郎を外務官房のなかで、もっとも重要である「通商局長」である地位につけるとともに、移民課長をも兼務させたのである。そしてこれらの移民の指向については、英国の「殖民教示局」の制度にならぬ設置し、移民指導をはたそうとしたのであった。

とくに問題になるのは榎本武揚が何時、どのような経過でメキシコへの移住を構想することになったかということである。さらにメキシコに殖民移住を決定するまえに、移住構想がどのような時点で発想されることになったかをみるかである。

咸臨丸で北海道への脱出を試みるとき、アメリカへ「亡命」を試みようとするめられたことは、よくいわれることであるが、榎本が北海道の吉田三郎右衛門にあてた手紙から明らかである。横浜在留の布哇国領事からのすすめがあり、このような自己の勢力下の人たちを連れて、移住するというのは日本からの緊急避難で「亡命」とみるべきであり、近代国家が政策として打ち出している移住政策の構想下での移住とは別の次元で考えられるべきである<sup>4)</sup>。

当時の言葉でいうところの「移住政略」は国家間における通商条約の締結をへて、現地における自国民の人身保護が充分にはたされることが必要であり、

4) 「榎本艦隊のハワイ亡命勅告」(上)『明治村通信』第206号 昭和62年8月18日  
「榎本艦隊のハワイ亡命勅告」(下)『明治村通信』第207号 昭和62年9月18日

それがためには現地での人身保護にあたるべき外務省の出先機関である領事館の設置が前提となるのである。このような基本的処置がなされなければ、移住などというような国家間の問題にまでわたる施策はとりえないのである。

榎本武揚の移住にたいする考え方は、殖民協会の設立趣旨書と発会式の演説で、つぎのように述べている。ここでは原文にしたがい掲載する。

(イ) 我移殖民は不振

移住殖民の業は方今我国の急務である。官民相俱に漸く之を知り着手せざるにあらずと雖も、未だ大いに見るべきものがない。

(ロ) 急がないと進出の余地が無くなる。

我国には北海道其他未開の地あるも多くの人口を容れる余地なかるべし。又北海道の開拓は固より之を努むべし。我国の版図に属する地は、永く之を失う虞なきも海外に在る地は速かに之を求むるに非ずんば尽く他国の有に帰し、我國民の進出の余地が無くなってしまふであらう。

(ハ) 出稼ぎよりも永住が大切。

出稼移住して一時の利を収めるは我国永遠の謀に非ず。子孫永住の目的を定め海外に移住するを以て良しとする。

今や欧州の雄国相競って移住殖民の業を企てるや各々富国の策も立つに在り、我国も亦自ら立て、大いに此業を企てなくてはならぬ。

このような発言をみるかぎりにおいて、榎本の殖民思想は、すでに、メキシコに指向していたものとみてよいのである。

しかし榎本はこのような殖民意図について発言することの立場にはなかったのであり、すでに在野の人であり、枢密院議員の発言力のない立場にあったことは、いうまでもない。

### 3. 殖民協会の成立

#### 1) 発会式

榎本武揚は、松方正義内閣が短期間で、互解したために、その運命とともに

した外務大臣の職を離脱せねばならず、これを個人の手によって推進することを計画せざるを得なかった。このことは英国の殖民局の制度を参考にしようとするものであった。この英国の関係情報は、外務大臣にあったときで、事業内容を在ロンドン領事館の手により翻訳させ入手していたものであった。

ここでは民間機関として発足することの理由を、概略ながら、つぎのように記述されている。

当国(英国、引用者註)ニ於テ私立殖民事業ニ係ル会社ノ内ニハ、慈善ヲ目的ニスルト商業的ニ出ルトノ二種アリテ其数枚挙ニ遑アラズ、慈善主義ニ基ク会ハ、概シテ慈善者ノ義捐金ヲ以テ資本トナシ、専ラ貧人ノ小女、小童ヲ救郵シテ宗旨的ノ教育ヲ授ケ之ヲ属地ヘ回送シテ職業ヲ得セシムルニアリ、又商業的ノ会社ハ資本ヲ募リテ広大ナル土地ヲ属地ニ於テ購入スルカ若クハ属地政府ト特約ヲナシ、無代価ニテ地面ヲ専有スル事ノ認可ヲ得、出稼人ヲ募リ之レニ年賦ニテ資金ヲ貸与シ、専ラ農業ニ従事セシムルニアリ(下線、引用者)(後略)

つまり慈善的なものと、商業的なものとの二つがあり、後者は(1)会社組織で土地を購入すること、(2)殖民者に土地を貸与し、(3)農業に従事せしめる、としている<sup>5)</sup>。

これに対して、わが国では、このような外国に領土を保有せず、財政的にも、このような外地において経済的活動をする余裕がなかったのであり、また北海道開拓のため、精力的に殖民を送って開拓につとめようとするときには、このような植民地経営を目的とする組織の整った制度を必要としなかったのである。

直接的には、明治26(1893)年1月31日、「移住殖民ニ熱心ナル有志家ヲ集メ、一ツノ団体ヲ組織」する目的で、発起人が第一回会合を日本貿易協会内に開き、栗原亮一、柴四郎を委員に撰出した。両名の役割は主として、発会にとまなう主意書および規則書の起草にあった。この規則にもとづいて、2月5日、

5) 『日本外交文書』第24巻、自明治24年1月至明治24年12月 国際外交協会  
「英国殖民及移住ニ関スル報告」『殖民協会報告』第1号 殖民協会

東京地学協会において第二回会合をもち、成立委員20名を選出した。これらの20名とは、

栗原亮一、柴四郎、古佐嘉門、立川雲平、箕浦勝人、津田静一、杉浦重剛、三宅雄二郎、渡辺勘十郎、肥塚龍、恒屋盛服、上遠野富之助、高野周省、浅岡岩太郎、富山駒吉、榎本龍吉、森尾茂助、加藤平四郎、齊藤珪次、玉置半右衛門

であり、このうち恒屋盛服と渡辺勘十郎の二名は幹事が任命された<sup>6)</sup>。

## 2) メキシコに移住地を設定した理由

わが国がメキシコとの間に通商条約を締結し、移住適地として確認することになるのは、メキシコの経済的発展のために、東洋貿易を盛んにすること、そしてヨーロッパからの資本主義化を押し進めようとする事になったことからの問題であり、たんにメキシコがそこに存在することにあるのではない。

日本国及墨西哥合衆国修好通商条約は、明治21(1888)年1月30日ワシントンにおいて調印され、明治22(1889)年1月29日批准、6月6日にはワシントンにおいて批准書交換、7月18日に公布された。この条約は日本にとっては、幕末以来、不平等条約の改正に努力してとり組んできた成果の一つであり、最初の平等条約であった<sup>7)</sup>。

この条約の締結については、アメリカとメキシコとの相互関係、また日本の不平等条約の解消の挫折などの関係において、みる必要があるが、ここでは直接の関係はないので省略することにする。ただこの条約の締結に際して、1888年2月1日に、大隈重信が外務大臣に就任し、陸奥宗光を駐米大使として派遣したときに、アメリカとの外交関係においてとりえた外交交渉の結果である。そのためメキシコとの通商条約の締結ののちに、もっとも受入が容易

6) 古館 豊『『殖民協会』設立に関する一考察』『史報』創刊号 日本史学大学院同発表大会実行委員会「史報」編集委員会 1979年11月 37～43ページ。

7) 大山 梓「日墨条約の締結」『歴史教育』第4巻第1号 昭和31年1月1日 30～35ページ。

に行えるという土壤ができたから殖民移住ということが発生したとみるべきである<sup>8)</sup>。

世間一般には、北海道に榎本武揚が意図したような「共和国」を樹立できなかったのも、そのような独立国としての国家体制をもつような革命的な事業を、メキシコに求めたのではないかとする推測であるが、そのような国家的構想の根拠を何に求めようとするのであろうか。それは敗北者への「判官びいき」による日本人的発想とみるのである。

これについて外務省中南米移住局の出版した『移住思潮』では、つぎのように述べている。これについての直接的動機は、そのとおりであるが、実際にはその以前から準備されていたのである<sup>9)</sup>。

メキシコの調査が行われたについてはつぎのような経緯がある。すなわち在サンフランシスコ領事館の藤田敏郎書記生が同館雇のダニエル・エス・リチャードソンとその友人サンチェス(メキシコ人)から、メキシコの有望なことを説かれ、これを東京に伝えたところ、榎本大臣はこの意見を容れて、まずメキシコに領事館を開設、藤田を領事代理とし、ついで日本からも応援4名を派遣して、175日間にわたりメキシコの太平洋岸一帯を移民適地のために調査させた。これが後の殖民協会によるメキシコ移住につながっていく。

この内容は、あくまでも大英帝国という世界各地に植民地をもち、その経営にあたる人材を養成する必要にせまられた国情とは、ことにするものである。そのためにこのような組織を、そのまま適用するようなことはできない。あくまでも日本の国情に合致したものが望まれたのである。

政府機関が正式に設置されなかったのは、当時における一般の移民に対する考え方が、「国を棄てて外国に居を移す」という国家への帰属意識を欠くもの

8) 国本伊代「近代日墨関係の形成と米國—1888~1910」『ラテン・アメリカ論集』第11, 12号 1978.11, 83~102ページ。

9) 『移住思潮』(一)資料篇—外務省中南米移住局 1965年12月

この註は、簡単に事実を述べたものに過ぎないが、やはり動機については詳細に明らかにする必要があるとみられる。

に対して、ことさら政府が、援助を与えることを必要としないというものであった。そのために棄民という意識が非常につよく働いていること、それは『徴兵令』の改正による兵役免除の手段となりうることなどであった。

このような利害関係から移民に対して保護することはあっても、積極的に、それも少数の人たちの利益のために、保護する必要はないとの発想であった。

このような見方は、第三回農工商高等会議において、最終的に決定をみたのである。このために『殖民協会報告』もこれを非常に重要な施策変更とみて掲載している<sup>10)</sup>。

#### 4. 殖民協会の経営状況

経理上からの問題については、別に検討することとし、事業の面からみると、その転換期は、榎本殖民の失敗の処理をどのように殖民協会の事業に反映させていったかということである。その時期は、後文から明らかなように明治32(1899)年からの殖民事業拡張にあった。

このように殖民協会の事業が、メキシコ殖民移住を機会として、衰退することを盛り返すために、事業の拡張策が検討されていた。明治32年3月11日には恒例により、第6回総会が開催されるが、その後、5月6日の評議員会で安藤太郎は幹事を辞任することになり、感謝状を贈られることが決議されている。そしておそらく大日本禁酒同盟会長に就任することになるのであろう。そのため、この時期には多くの人たちの入れ替えが行われることになる。このとき鎌原幸治が、評議員に指名選任されているが、のちに『殖民時報』の編輯にあっている。安藤太郎は、榎本武揚と行動をともにしてきた人物であり、つねに官界にあっては部下として活躍していた。殖民協会の幹事としては、前後7年間も勤めていたわけである。このような辞任は、安藤太郎からの申し出であったかは不明であるけれども、この殖民協会の事業には、見切りをつけたかったのであろう。

10) 「海外移民ニ対スル決議」『殖民協会報告』第66号 殖民協会 明治32年2月4日

### 1) 『殖民協会報告』から『殖民時報』へ

これは殖民協会の改革の一環として行われたものであるが、明治32(1899)年8月より、紙面を一新するために、誌名を『殖民協会報告』から『殖民時報』とあらためている。この内容の変化が大きく現れており、いままでの『報告』という色彩を一部に残してはいるものの、むしろ殖民事業への参加をよびかけるものとなり、読者層を厚くするために、紙面も多彩となり、「詞壇」などもいれて読みやすくするなど編集方針に変更がみられた。なおそれ以前の明治31(1898)年10月14日には、『殖民時報』の編輯兼発行人安西唯三郎は、都合により(理由は明らかにされていないのであるが)辞任することになり、このとき発行人を高野周省(藤田敏郎在メキシコ領事館書記生とともに、メキシコ国内を調査)、そして編輯人を竹川勝太郎に囑託している。

### 2) 殖民協会の経理

協会設立時のときには、多くの有志者から寄附を仰いでいる。このことは「殖民協会規則」第六条に明らかとおり、「会費の徴収及び寄附金」によるものとするのであるから、経営の上では会費の徴収によって運営することを原則としていた。しかしこの会費のみによる経営は不充分であり、最初の成立期には、46名の参加者より259円の寄附金を集めている。そのうちやはり榎本武揚会長の出資を基礎とし、つぎの供出者の協力により、

榎本武揚30円、近衛篤磨20円、星享20円、大谷嘉兵衛15円、津田静一・奥三郎兵衛・渡辺洪基・大橋佐平各10円、志賀重昂7円、田口卯吉・三宅雄二郎・根本正各5円(記名者のみ)

の応分の援助を受けたのであった。このような寄付行為は非営利の事業を行うものについて避けられない問題ではあるが、これがどれだけの期間にわたって継続的に続けられたかが、その事業の成果にかかわるものであった。また各移民会社は、後に寄附金を抛出しているが、協会の事業には期待をかけていたのである。

終刊の時期については、このことを明らかにする新聞報道もないし、また「終刊の辞」も『殖民時報』第100号には掲載されていない。『殖民協会報告』が『殖民時報』と雑誌名を変更したのち、明治35年11月25日まで発行されるが〔別表1〕、このとき第100号を迎えることになり、また明治35(1902)年に終わりを告げようとしたときでもあり、その刊行目的とするところが十分に世間に認識されないので、終刊することになったものと思われる。この間にあって、とくに明治32(1899)年の事業の改革から、殖民協会は殖民するものへの相談にも当ることになり、また『殖民時報』の購読者を増加させるために、あらゆる

〔表〕1. 会費領収状況

年 月 日	会費・寄付金	6カ月集計換算	掲 載	備 考	
明治30年3・4月	151円50銭	4カ月分 340円04銭4厘	第48号		
明治30年5月	113円44銭4厘		第49号		
明治30年6月	75円10銭		第50号		
明治30年7月	54円		第51号		
明治30年8月	78円57銭3厘		第51号		
明治30年9月	72円60銭		第52号		
明治30年10月	60円80銭		第53号		
明治30年11月	56円30銭		第55号		
明治30年12月	88円20銭		410円47銭3厘		第56号
明治31年1月	60円50銭		第57号		
明治31年2月	46円80銭		第58号		
明治31年3月	39円10銭		第59号		
明治31年4月	52円60銭	第60号			
明治31年5月	59円70銭	第61号			
明治31年6月	155円40銭	414円10銭	第62号	榎本子爵寄付 100円	
明治31年7月	47円10銭	第63号			
明治31年8月	36円70銭	第64号			
明治31年9・10月 (1カ月平均)	116円70銭 (58円35銭)	第65号	滞納者の払込		
明治31年11・12月 (1カ月平均)	94円20銭 (47円10銭)	294円70銭	第66号		
明治32年1月	47円89銭		第67号		

〔註〕明治32年2月より、会費徴収について記載なし。

方策がとられることになる。会員であって移住の目的で海外に渡航する者にたいする便宜、学校に配布、学生会員の会費無料などの促進策をとっていたのであるが、残念なことには殖民事業の失敗とあるいは不成功から購読者は増加しなかったものであり、会員の増加と会費の増収を目的とした改革は失敗に終わったものとみてよい。

榎本殖民が出発する明治30(1897)年3月以後における会費の払込状況は、次第に悪化していく。そのすべてが「会費領収者」として記載されているわけではないが、明治31(1898)年3月には非常に減少をたどることになる。この不足分を補うことになるのは、榎本であった。いつも寄附金によって、会計の補完をはかっているのである。この金額は、多数に登っており、表面的には一部を除いて表示しているのであるが、恐らくこれだけの金額を援助をするのは榎本しか有り得ないのではないか。この不明分をも含めて榎本のものとし、集計するならば、

明治26年上半期寄付金	30円(寄付金の総額は233円、榎本会長他とあり)
明治26年下半期寄付金	140円(寄付金の総額は180円、借入金40円とあるが、榎本子爵40円)
明治27年上半期	寄付金はなく、健全会計。
明治27年下半期	寄付金はなく、健全会計。
明治28年上半期寄付金	32円(この時点で、不足を生ずる)
明治28年下半期寄付金	100円(寄付金で、この年の会計は維持できた)
明治29年上半期寄付金	19円30銭
明治29年下半期寄付金	30円
明治30年上半期寄付金	52円89銭6厘(19円48銭6厘は、浜浦伊助) (32円41銭は、榎本子爵)
明治30年下半期	収支計算書には、記載されていない。
明治31年上半期寄付金	100円(榎本子爵拠出金と銘記しているのは唯一)
明治31年下半期寄付金	100円

明治32年度寄付金	100円 (別に借入金160円があるが出所は不明)
明治33年度寄付金	482円86銭 (借入金100円があるが出所は不明)
明治34年度	収支計算書は発行されなかったらしい。
明治35年度	100号は11月発行であり収支計算書は発表されず。

と収支計算書と寄贈からその一部が明らかになるが、これ以外(吉佐移民会社100円)にも挙げることができる。すると金額から推測されることは、100円の単位ではなく端数の単位のものもあるが、これを計算に入れるのは不正確さをまめがれないが、これらの寄附金は榎本によって不足を補っていたのである。そして明治30年を境として増加の一途をたどっているのは、事業への信頼が薄れてきたからであろう。

明治32(1899)年5月6日開催の評議員会においても、会費徴収のことが検討されている。このとき事務所の移転についても「家賃高額ニ上ラサル限りハ移転ニ決ス」との条件付きで「東京府京橋区西紺屋町19番地」へ移転することになる。そのために今度は事務所家賃が急激に増加することになり、これらが他の経費を圧迫することになるのである。

この経過は、設立当初から年間家賃120円(半期ごとの計算では、60円)であった。これを移転することにせまられたが、おそらく拡張計画にたいして部屋が狭くなったのであろう。

明治26年上半期家賃	36円46銭 7厘
明治26年下半期家賃	60円
以下、同じ、	
明治32年年間家賃	121円99銭 8厘
明治33年年間家賃	230円

と約2倍となっている。このとき殖民協会の事業拡張のために移転が行われたけれども、この移転による効果は期待できなかった。

殖民協会の会計にしても明治33(1900)年ごろから新入会者の減少と会費納入

状況が悪化することで、未納者への納入を催促する「会告」が出されることになる(これは現在でも、同じことではあるが)。明治32(1899)年度の収支計算書は、会費収入が669円60銭で110円を寄附金でまかなっており、明治33(1900)年度の収支計算書は、翌年の11月になって公表するという始末であり、事業収入の中心である会費収入についても778円91銭で、あとの大部分は寄附金482円86銭と約62パーセントを占めるという状態である。いずれの運営でも同じであるが、基本的には会費によってどれだけの支出がなされ他の援助なしに健全な運営ができるのかということである。この観点からみるならば、次第に殖民協会への関心が薄れ、会費の徴収がままにならない状態にまで追いやられることになった。これ以後の分については、収支計算書は公表されていない。

これ以下、殖民協会の報告に準拠して、その会計の実情について詳細な経営状態をみることにしたい。

このとき雑収入が233円の多額にのぼっているのは、殖民協会設立に際しての寄附金であり、設立に際しての役員など23名のものが、3～50円にわたる寄

〔表〕2. 明治26年上半年期(自3月至6月)収支計算書

収 入 の 部		支 出 の 部	
会費収入	295円10銭	事務所家賃	36円46銭7厘
雑収入	1円12銭	集会費	30円01銭7厘
寄附金	233円	諸給	33円
		報酬	74円50銭
		筆墨紙費	6円12銭
		印刷費	245円96銭1厘
		広告費	6円50銭6厘
		通信費	36円63銭
		備品	13円93銭
		雑費	13円02銭
		協会成立前負債消却	14円84銭
		繰越高	18円22銭9厘
合 計	529円22銭	合 計	529円22銭

〔註〕『殖民協会報告』第8号「会計決算書」より作表

〔表〕3. 明治26年下半年(自7月至12月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前期ヨリ繰越高	18円22銭9厘	事務所家賃	60円
会費収入	682円70銭	宴会費	24円95銭5厘
雑収入	8円42銭	諸給	88円40銭
借入金	40円	報酬	70円
寄附金	180円	筆墨紙費	6円41銭2厘
		印刷費	320円80銭6厘
		通信費	67円35銭
		備品	5円29銭
		雑費	31円63銭4厘
		慰労金	15円75銭
		返済金	40円
		繰越高	198円75銭2厘
合 計	929円34銭9厘	合 計	929円34銭9厘

〔註〕『殖民協会報告』第10号「収支計算書」より作表

〔表〕4. 明治27年上半年(自1月至6月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ繰越高	198円75銭2厘	通信費	56円02銭
会費収入	513円10銭	事務所経費	60円
雑収入	15円65銭	集会費	5円
		報酬	60円
		雑費	39円57銭9厘
		筆墨紙費	6円92銭3厘
		備品	3円38銭
		印刷費	290円96銭4厘
		諸給	92円48銭
		残金	113円15銭6厘
合 計	727円50銭2厘	合 計	727円50銭2厘

〔註〕『殖民協会報告』第15号「収支計算書」より作表

附をしている。榎本武揚は、このとき寄附金30円を拠出していることは、全体との調和を考えてのことであろう。

明治26年下半年では、寄附金に膨大な金額が寄せられているが、これは榎本

武揚が140円も拠出しているからである。あとの40円の内訳は、30円が日本吉佐移民会社、10円は浅田政吉が拠出している。

この期の決算は、活動の開始からみて、多くの経費を要することは理解でき

〔表〕5. 明治27年下半年(自7月至12月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前期繰越高	113円15銭6厘	印刷費	226円93銭
会費収入	508円80銭	事務所家賃	60円
雑収入	13円48銭	通信費	48円79銭
		報酬	40円
		諸給	122円
		雑費	29円88銭7厘
		筆墨紙費	4円81銭
		慰労金	31円40銭
		備品費	37銭
		残金	71円24銭9厘
合 計	635円43銭6厘	合 計	635円43銭6厘

〔註〕『殖民協會報告』第22号「収支計算書」より作表

〔表〕6. 明治28年上半年(自1月至6月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
明治27年度ヨリ繰越金	71円24銭9厘	業務所経費	60円
会費収入	557円	印刷費	267円95銭
寄附金	32円	諸給	138円
雑収入	63円12銭	報酬	36円
		集会費	71円14銭
		通信費	61円15銭
		雑費	28円24銭5厘
		新聞講読費	10円79銭
		報告配達費	7円58銭3厘
		筆墨紙費	6円46銭4厘
		備品費	5円50銭
		残金	30円54銭7厘
合 計	723円36銭9厘	合 計	723円24銭9厘

〔註〕『殖民協會報告』第27号「収支計算書」より作表

〔表〕 7. 明治28年下半年(自7月至12月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前期ヨリ繰越高	30円54銭7厘	事務所経費	60円
会費収入	485円80銭	印刷費	257円13銭9厘
寄附金	100円	諸給	138円
借入金	65円37銭1厘	報酬	24円
雑収入	15円02銭	通信費	42円75銭
		雑費	27円06銭4厘
		新聞講読費	8円09銭5厘
		報告配達費	6円60銭6厘
		筆墨紙費	6円89銭5厘
		備品費	65銭
		返済金	65円37銭1厘
		慰労金	20円50銭
		残金	39円66銭8厘
合 計	696円73銭8厘	合 計	696円73銭8厘

〔註〕『殖民協会報告』第33号「収支計算書」より作表

るが、早々から榎本自身の寄附金に依存せねばならず、約半分の金額が印刷費として消費されており、また普及のためか、宴会費に24円なにがしをつかっており、健全会計とはいえない。

この明治27年上半年期になると健全会計にはいっており、残金を食い潰すようなことはなくなる。実際の活動からみると、会費にたよっている限り、このような活動による会計が限度であろう。

この明治27年下半年期においても、ぎりぎりのところで会計がたもたれているという状況である。会費は合員数によることが大きいので、会員の獲得により左右されることになる。

この明治28年上半年期においては、順調な会計であるが、何分とも残金が少なく何らかの補給が必要であり、前期からの食い潰しとなっている。

この明治28年下半年期では、寄附金100円が投入されているが、これは榎本武揚の拠出金ではなからうか。これは以下の期間においても同じである。会計上

からみてもこのような大金を拠出できるのは榎本武揚だけであった。そのためによく赤字になることを避けることができたのであり、39円余の残金を繰越すことができた。

〔表〕8. 明治29年上半年(自1月至6月)収支計算書

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ繰越高	39円66銭8厘	事務所家賃	60円
会費収入	534円27銭	諸給	138円61銭
寄附金	19円30銭	通信費	36円43銭
雑収入	4円48銭	印刷費	237円72銭5厘
		集会費	39円17銭
		雑費	16円47銭4厘
		筆墨紙費	4円94銭7厘
		報告配達費	4円87銭3厘
		新聞講読費	7円28銭
		備品費	18銭
		残金	52円02銭9厘
合 計	597円71銭8厘	合 計	597円71銭8厘

〔註〕『殖民協会報告』第39号「収支計算書」より作表

〔表〕9. 明治29年下半年(自7月至12月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ繰越高	52円02銭9厘	事務所家賃	60円
会費収入	473円08銭3厘	諸給料	138円
寄附金	30円	通信費	33円23銭
雑収入	7円01銭	印刷費	220円83銭
		諸雑費	13円49銭5厘
		新聞講読費	5円40銭
		報告書配達費	7円86銭
		筆墨紙費	2円70銭
		慰労費	28円
		残金	52円60銭7厘
合 計	562円12銭2厘	合 計	562円12銭2厘

〔註〕『殖民協会報告』第45号「収支計算書」より作表

〔表〕 10. 明治30年上半年(自1月至6月)収支計算書

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ繰越高	52円60銭7厘	事務所家賃	60円
会費収入	486円84銭4厘	諸給	138円
寄付金	52円89銭6厘	通信費	25円21銭5厘
雑収入	11円54銭	印刷費	175円90銭
		諸雑費	9円35銭8厘
		報告配達費	6円70銭2厘
		備品費	9円06銭5厘
		集会費	32円41銭
		筆墨紙費	7円32銭4厘
		新聞講読費	6円78銭
		報酬	10円
		慰労金	10円
		残金	113円13銭3厘
合 計	603円88銭7厘	合 計	603円88銭7厘

〔註〕『殖民協会報告』第50号「収支計算書」より作表

〔表〕 11. 明治30年下半年(自7月至12月)収支計算書

『殖民協会報告』には収支計算書は掲載されていない。この明治30年下半年はメキシコ殖民移住により経費が掛りすぎ、これを公開することがはばかれたか、あるいは欠損が多く公表できるような状態ではなかった。この経費を見込むならば、到底成り立たなくなるため、内容を公表をせずに抹消したのではなかろうか。

この明治31年上半年では、註として榎本武揚拠出金とみえている。これが拠出金として記入される唯一のものであるが、これ以後の部分においても100円とある場合には、これを榎本武揚の寄附によるものとみて差支えないのではないか。

この明治31年下半年でも同じことで、寄附金の100円は、榎本武揚の拠出金とみるべきではなかろうか。そうでなければ、欠損となり、この時期からの『殖民時報』の配付などについての殖民活動に際して支障が起こることになる。

この年より会計は半期ごとではなく、年間に1回となっている。このために

〔表〕12. 明治31年上半年(自1月至6月)収支計算書

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ繰越高	81円28銭8厘	事務所家賃	60円
寄付金(榎本武揚醸出金)	100円	諸給料	138円
会費収入	318円60銭	印刷費	196円77銭1厘
雑収入	18円01銭	新聞講読費	9円43銭
		雑費	16円61銭4厘
		筆墨紙費	1円95銭
		報告配達費	4円70銭
		通信費	22円81銭5厘
		残金	67円61銭8厘
合 計	517円89銭8厘	合 計	517円89銭8厘

〔註〕『殖民協会報告』第63号「収支計算書」より作表

〔表〕13. 明治31年下半年(自6月至12月)収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前期ヨリ繰越高	67円61銭8厘	印刷費	129円39銭1厘
会費収入	294円70銭	通信費	22円7銭
雑収入	2円86銭	諸給料	138円
寄付金	100円	家賃	60円
		新聞講読費	6円
		報告配達費	4円52銭8厘
		筆墨紙費	4円31銭5厘
		慰勞金	13円
		雑費	2円48銭
		残金	85円39銭4厘
合 計	465円17銭8厘	合 計	465円17銭8厘

〔註〕『殖民協会報告』66号「収支計算書」より作表

数字は大きくなるけれども、半期ごとに換算した金額は次第に増加することになる。その理由とするところは殖民協会の建て直しにあり、事業活動の活発化にともなう経費の増加によるものである。その資金のすべての100円は、榎本武揚の供出によるものと思われ、このことは健全な財政ではなく、この事業の継続性をあやふくする結果になるのである。

〔表〕 14. 明治32年度 (自1月至12月) 収支計算書

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ越高	85円39銭4厘	事務所家賃	121円99銭8厘
会費収入	669円60銭	印刷費	416円57銭6厘
寄付金	110円	給与	240円
拡張費	31円	通信費	74円45銭5厘
繰換金	351円25銭	集会費	81円12銭5厘
借入金	160円	新聞講読費 (外国新聞)	116円38銭
雑収入	86円90銭	筆墨紙費	14円06銭
		速記料	20円57銭8厘
		編纂費用	70円
		手当金	46円95銭
		殖民時報配達料	8円40銭6厘
		備品費	4円69銭
		慰労金	61円50銭
		雑費 (車代, 筆耕料)	123円15銭8厘
		残金	94円26銭8厘
合 計	1,494円14銭4厘	合 計	1,494円14銭4厘

〔註〕 『殖民時報』 第75号「収支計算書」より作表

なお明治34(1901)年度については、明治35(1902)年11月まで『殖民時報』が発行されているのであるが、これにも経理の内容については公表されていない。この理由については推測にすぎないのであるが、この明治34年1月1日と2日の2回にわたり『時事新報』誌上に福沢諭吉が明治26年に直接に手紙を送って回答をもとめた「瘦我慢の説」が、このとき、ふたたび掲載されている<sup>11)</sup>。

これに対して榎本武揚は何も反論することはなかったのである。ただ約1カ月くらいたったのち『時事新報』に評論が掲載されているくらいである<sup>12)</sup>。

しかし福沢諭吉は『時事新報』に「瘦我慢の説」を、ふたたび紙上发表したのち、わずか一カ月たらずの2月3日午後10時50分に死去している。

11) 『時事新報』第6148号, 明治34年1月1日第2面第1〜3段『瘦我慢の説』

『時事新報』第6149号, 明治34年1月2日第2面第1〜4段『瘦我慢の説』

『時事新報』第6150号, 明治34年1月3日第2面第1〜4段『瘦我慢の説』

12) 『時事新報』第6172号, 明治34年1月25日第2面第1〜6段, 第3面第1〜2段

〔表〕15. 明治33年度（自1月至12月）収支計算書

収 支 の 部		支 出 の 部	
前年度ヨリ繰越高	94円26銭8厘	事務所家賃	230円
会費収入	778円91銭	印刷費	614円49銭5厘
寄附金	482円86銭	給料	301円60銭
拡張費	460円	編纂費	360円
雑収入	77円76銭5厘	手当金	63円
繰替金	320円	車馬費	101円40銭
借入金	100円	通信費	103円64銭
		筆墨紙費	29円11銭5厘
		雑費	29円22銭
		集会費	164円12銭5厘
		殖民時報配達費	12円53銭6厘
		新聞講読費	7円79銭
		慰労金	150円
		残金	136円88銭2厘
合 計	2,313円80銭3厘	合 計	2,313円80銭3厘

〔註〕『殖民時報』第90号「収支計算書」より作表

ただこの発表は、これで納まることはなかった。好評であったことにもよるのであるが、すぐに「丁丑公論」を加え、合本として5月に出版された。これも好評であり、その年の暮れには、5版(1版は、何部かわからないが)を数えている。

このようなことから、殖民協会の経営は、影響をうけなかったとはいえないのである。あるいはこのような殖民事業への関心のなさが、『殖民時報』廃刊の遠因となったのであろう。榎本殖民が行われたのち、殖民の啓蒙運動は、このような失敗を軸として逆の効果をもたらすことになり、いくら建て直しをかけたとしてもその効果が上がらず、終焉したものとみるのである。

この時期になると、営利を目的とする移民会社が乱立することになり、明治32(1899)年には、すでに15の移民会社が存在した。このような会社にたいして、政府は設立に保証金を供託させることにより設立に制限を加えることにし、「移民保証人」の制約にのりですが、何分とも現地情報が詳細に分からないという、日本にあっての契約には多くの難点をもっていたのである。

## 〔別表〕 1. 『殖民協会報告』『殖民時報』発行状況

号数	年月日	名 称	総ページ数	刊 行 状 況
1	26.04.15	殖民協会報告	121ページ	定期
2	26.05.15	々	150	
3	26.06.22	々	140	
4	26.07.31	々	124	
5	26.09.10	々	136	8月発行なし。
6	26.10.01	々	138	
7	26.11.13	々	146	
8	26.11.13	々	71	11月は同時に2冊発行
9	27.01.20	々	108	12月発行はなし。
10	27.02.17	々	81	
11	27.03.21	々	90	
12	27.04.21	々	102	
13	27.05.21	々	103	
14	27.06.23	々	91	
15	27.07.19	々	61	
16	27.08.20	々	89	
17	27.09.20	々	79	
18	27.10.20	々	100	
19	27.11.20	々	116	
20	27.12.20	々	120	
21	28.01.19	々	127	
22	28.02.20	々	89	
23	28.03.22	々	138	
24	28.04.22	々	97	
25	28.05.25	々	104	
26	28.06.21	々	113	
27	28.07.18	々	90	
28	28.08.23	々	100	
29	28.09.21	々	130	
30	28.10.25	々	97	
31	28.11.29	々	136	
32	28.12.19	々	98	
33	29.01.28	々	94	
34	29.02.25	々	93	
35	29.03.25	々	85	
36	29.04.28	々	94	
37	29.05.31	々	70	
38	29.07.10	々	106	6月発行分は遅れて、7月10日発行。
39	29.07.30	々	107	

40	29.08.31	々	98	
41	29.10.17	々	71	9月発行分は遅れて、10月17日発行。 11月発行分は遅れて、12月5日発行。 1月発行を欠く。
42	29.10.29	々	79	
43	29.12.05	々	106	
44	29.12.28	々	80	
45	30.02.08	々	74	
46	30.03.09	々	54	
47	30.04.13	々	58	
48	30.05.19	々	74	
49	30.06.30	々	80	
50	30.07.30	々	98	
51	30.08.30	々	60	
52	30.09.30	々	99	
53	30.10.30	々	47	
54	30.11.30	々	61	
55	30.12.30	々	58	
56	31.01.31	々	63	
57	31.02.28	々	41	
58	31.03.30	々	45	
59	31.04.30	々	79	
60	31.06.04	々	127	
61	31.07.05	々	103	6月発行を欠く。 11月発行を欠く。 1月発行を欠く。 3月発行を欠く。 5月発行を欠く。 名称変更による内容が変わる。7月発行を欠く。
62	31.08.09	々	90	
63	31.09.19	々	74	
64	31.10.25	々	74	
65	31.12.17	々	83	
66	32.02.04	々	77	
67	32.04.15	々	66	
68	32.06.12	々	84	
69	32.08.16	殖 民 時 報	101	
70	32.09.16	々	114	
71	32.10.28	々	86	
72	32.11.16	々	84	
73	32.12.16	々	84	
74	33.01.16	々	85	
75	33.02.21	々	99	
76	33.03.21	々	86	
77	33.04.21	々	92	
78	33.05.21	々	70	
79	33.06.21	々	64	
80	不 明	々	54	
81	33.09.10	々	84	7月発行とすれば、8月発行を欠く。 毎月10日発行に変更届を出す。

82	33.10.10	々	66	
83	33.11.10	々	79	
84	33.12.10	々	71	
85	34.01.22	々	56	
86	34.03.10	々	55	2月発行を欠く。
87	34.05.25	々	44	4月発行を欠く。
88	34.08.25	々	44	6, 7月発行を欠く。
89	34.09.10	々	45	
90	34.11.10	々	49	10月発行を欠く。
91	34.12.28	々	44	91~100号では, 60ページを越えない。
92	35.01.28	々	56	
93	35.03.10	々	56	2月発行を欠く。
94	35.04.15	々	33	
95	35.05.25	々	40	
96	35.06.25	々	60	
97	35.07.25	々	38	
98	35.08.25	々	38	
99	35.09.25	々	40	
100	35.11.25	々	41	10月発行を欠く。

[註] 1. 総ページ数には, 前文を含み, 広告分は除外する。

〔別表〕2. 『殖民協会報告』『殖民時報』掲載題目

号数	年月日	名称	題 目	ページ
1	26.04.15	殖民協会報告	殖民協会報告発刊の理由 榎本会長の演説 英国殖民及移住ニ関スル報告 在英國大越領事報告 ○第一 英国屬地及外国へ殖民及移住ニ関スル計画 ○第二 殖民調査委員ノ意見 ○第三 移民教示局ノ組織及其事業 ○第四 英国殖民事業ノ教育 ○第五 北米合衆国及英屬領地ニ於ケル貧民出稼人制限ニ関スル法律概略 移住民ニ関スル加奈太ノ制限法 濠洲「ビクトリア」州ノ制 墨国太平洋沿岸諸州巡回報告 在墨府領事代理藤田敏郎報告 第一章 巡回順路及経歴 第二章 農業(以下続載) 比律賓群島報告〔佐野常樹報告〕 ○「パラグワ」島(或ハ「パラワン」島ト云フ)概況及殖民計画 航南日記〔会員富山駒吉〕(以下続載) 英領加奈太巡回志 ○ブリチシュ、コロンビア洲ノ部 会員渡辺勘十郎〔雑録〕 殖民協会設立の経過 同設立趣意書 殖民協会規則 評議員〔計 二八名〕 会員姓名〔合計四三五名〕	1- 2 3- 10 11- 27 28- 62 62- 71 72- 80 81-101 102-105 105-108 108-110 110-111 111-121 総頁 121
2	26.05.15	殖民協会報告	比律賓群島視察報告書 佐野常樹報告 比律賓群島植民事宜 地理及人民 土地 耕地未耕地及土地所有制度 各州拓地情况及地価(未完) 墨国太平洋沿岸諸州巡回報告(完) 英国殖民及移住ニ関スル報告(承前) ○第六 英領加奈太ニ於ケル移住民ニ対スル特典 ○第七 北「ボルネオ」殖民事情 北「ボルネオ」島新会社創設ノ件 ○第八 英国各殖民地土地買借手續心得 航南日記(続キ) 会員富山駒吉	1- 24 24- 68 68-122 122-133

			雑録 会報 会員姓名〔合計四八五名〕	134-142 143 145-150 総頁 150
3	26.06.22	殖民協会報告	馬来由半島将来殖民ノ意見一斑〔在新嘉坡領事代理書記 生斉藤 幹私信〕 テファンテベック鉄道 英国殖民及移住ニ関スル報告 (承前) ○第九 英国各殖民地物産、貨金、物価 墨国太平洋沿岸諸州巡回報告 (承前) 第三章 土地 第四章 商業及運輸 付録 ○太平洋汽船会社墨国沿岸各港間荷物運賃表 航南日記 (続キ) 会員富山駒吉 雑録 ○濠洲移住民 ○巴拉西爾の使節と移住民 ○パラグエー植民地 ○ホノルル府の日本物価 ○殖民高知協会設立趣意書及び規則 会報 寄贈書目及金員 会員に告ぐ 殖民協会規則 会員姓名〔合計五三〇名〕	1- 7 8- 12 13- 44 44-103 100-103 104-120 121-127 128-140 総頁 140
4	26.07.31	殖民協会報告	外国人ニ関スル法律及帰化法〔墨西哥共和国〕 一八八六年五月廿八日 殖民漁業等ニ関スル法律規定〔墨西哥共和国〕 ○移住民条例 一八八三年一二月一五日 殖民用品無税輸入規則 移民条約 英国殖民及移住ニ関スル報告 (承前) ○第十 結論 合衆国太平洋沿岸巡見誌 ○ワシントン州ノ部 濠洲談 会員川越余代 航南日記 (続キ) 会員富山駒吉 雑録 ○移住殖民 ○アラスカ近況 ○濠洲銀行業の状況	1- 12 13- 31 32- 70 70- 88 88- 96 96-107 107-112

			会報 寄贈品目 会員に告ぐ 殖民協会規則 会員姓名〔合計五八〇名〕	112-124          総頁 124
5	26.09.10	殖民協会報告	比律賓群島視察報告書(二号ノ続) 農業現況 土地ニ係ル諸税 漁業 道路交通及沿海航海 通貨 外國人及移住民 支那人 比律賓島烟草大会社移民計画 結論 墨国へ移住民誘導ノ件〔在墨西哥府領事代理藤田敏郎報告〕 新希伯利の群島英仏交渉始末 群島政治ノ現況 英仏条約 千八百八十八年(明治二十一年)一月十六日巴理調印ノ宣言書 連合委員会ノ処理規程 新希伯利の群島事情 会員荒井第二郎 雑録 ○下カリホルニアニ於ケル真珠業 ○墨国労働 ○伯刺西爾共和国移民状況 ○伯刺西爾国支那人移住条約 ○高知殖民協会ノ委員 ○薩哈連ニ於ケル日本出稼漁民 ○ニューカレドニア出稼人ノ帰朝 ○西伯利鉄道会議ノ決議 ○グアテマラ国ト日本労働者 ○白露国ニ於ケル往住及來住 在白露米國領事報告 会報 寄付書目及金員 会員に告ぐ 殖民協会規則 役員姓名 会員姓名(会員増加18名)	1- 48          49- 52  53- 63          65-106 107-120          121-136          総頁 136

6	26.10.11	殖民協会報告	<p>模範殖民ノ適地</p> <p>チアパス州ニ於ケル墨政府官有地調書                  ゲエレロ州ニ於ケル官有地調書                  本年八月十四日付藤田領事書信 (抜抄)                  「 그리스 」氏ノチアパス州談 (ツ、レバプリック新聞所掲) 附豚及雛禽ノ説 (會員榎本龍吉訳)                  墨国タバスコ州珈琲耕作問答 (答弁ハ州庁ノ手ニ成ル)                  布哇国糖業報告 [布哇駐在総領事安藤太郎報告]</p> <p>第一 ○各耕地我労働者就業上ノ優劣如何                  ○耕地反別ニ労働者使用ノ割合及「ルーナ」(労働者監視人)ノ人員給料ノ割合</p> <p>第二 ○甘蔗種芸方法</p> <p>第三 ○各耕地就業上ノ問答</p> <p>第四 ○在布外国移住民ト我邦人ノ間労役ノ優劣及給料ノ比較</p> <p>移民ニ就テノ意見 (八月二十六日付) 在米奥三郎兵衛探検員渡辺氏ノ来 (第一)</p> <p>航南日記 (四号ノ続)</p> <p>雜録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○清伯兩國間ノ航路問題</li> <li>○濠洲養蚕事業</li> <li>○尼加拉瓦運河工事ノ中止</li> <li>○日本労働者ト濠洲議會</li> <li>○米国出稼人身元調</li> <li>○米布合併新条約案</li> <li>○布哇行</li> <li>○哥爾薩港本邦出稼人ノ漁獲</li> <li>○シカゴ博覽会残品無稅通関ヲ許サル</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄付書目                  會員に告ぐ                  殖民協会規則                  役員姓名                  會員姓名 (會員増加11名)</p>	<p>1- 8</p> <p>9- 16</p> <p>17- 50</p> <p>51- 53</p> <p>55- 57</p> <p>59-116</p> <p>117-125</p> <p>127-138</p> <p>総頁 138</p>
7	26.11.13	殖民協会報告	<p>墨国物産誌一斑 鉱産部 (千八百九十二年八月廿一日刊行新約克ウオールド新聞抄訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鉱山 ○金銀鉱産 ○金鉱 ○水銀 ○鉄 ○銅</li> <li>○錫 ○亜鉛 ○白金 ○鉛 ○鉱物精鍊法</li> <li>○硫黄 ○陶土 ○塩 ○石炭</li> </ul> <p>墨国探検紀行 第一報 (八月卅一日付)</p> <p style="text-align: right;">在墨 根本 正</p> <p>日墨間航路創開ニ関スル意見 恒屋 盛服</p>	<p>1- 11</p> <p>13- 16</p> <p>17- 36</p>

			<p>布哇糖業報告(前号ノ続)</p> <p>第五 製糖ノ市価</p> <p>第六 布哇甘蔗種芸ノ起原及其進捗ノ概況 土地売買及貸借ノ方法 種芸者ノ營業組織</p> <p>布哇ニ就テ 若元 亀之助演説 市東 謙吉速記</p> <p>新希伯利の群島事情(五号ノ続) 会員 荒井 第二郎</p> <p>宗教 古伝 社会主義 土蛮消滅 白人 労働夫貿易 「イングリシ」氏論 カムベル氏論 「イムアウス」 氏論 宣教 英人所論 仏人所論 鉱物 地質調査 雑録</p> <p>英吉利殖民地面積及人口比較表 ○移住民ハ嬰兒ノ如シ ○婢僕ノ勢力 ○アイダーホ州土地予買法 ○グアテマラ労働者 ○グワテマラ国日本人労働契約書 ○孟買新航路 ○西班牙学協会</p> <p>会報</p> <p>寄附書目及寄附金 会員諸君に告ぐ 總會 十二月第二日曜日(十日)於柴山内紅葉館 殖民協会規則 役員姓名 会員姓名(会員増加21名)</p>	<p>37- 51</p> <p>53- 74</p> <p>75-120</p> <p>121-131</p> <p>133-146</p> <p>総頁 146</p>
8	26.11.13	殖民協会報告	<p>探検員渡辺氏ノ来翰(第二)</p> <p>サースデー島 渡辺 勘十郎</p> <p>白露国中央地方探検報告 英国白露会社探検委員 クラーク氏編述</p> <p>渤海地方 ○気候 ○草木 農産物 ○甘蔗 ○綿樹 ○玉蜀黍 ○葡萄樹 ○其他ノ産物 山丘地方 ○草木 ○労力 温帯地 ○気候 ○草木 ○農況 ○穀類 ○玉蜀黍 ○根物 ○牧場 ○運輸 「ターマー」 ○労力 ○農業 半熱帯地方 ○気候 ○草木 ○農況</p>	<p>1- 15</p> <p>17- 38</p>

		<p>熱帯地方                  ○気候 ○草木 ○農況 ○甘蔗 ○珈琲 ○米 ○                  「ココ」樹 ○煙草 ○藍樹 ○綿樹 ○玉蜀黍 ○                  現時ニ於ケル運輸ノ便 ○勞力</p> <p>雜録                  ○グアテマラ国出稼人墨国ニ流浪ス                  ○布哇ノ近況                  ○帝国軍艦布哇ニ赴ク                  ○公使帰国                  ○最近三ヶ年間に稼働者ノ数                  ○濠洲ノ養蚕                  ○米國太平洋沿岸北部労働者ノ困難                  ○日本ニ対スル印度人ノ希望                  ○合衆國加奈陀境ノ人頭税                  ○根本氏ニ関スル電報</p> <p>会報                  十一月二十日午後六時評議員会                  十二月八日午後六時調査委員会                  十二月十日午後一時紫紅葉館第一年半期總會                  榎本会長ノ演説                  会務顛末                  評議員会                  演説会                  役員選任及辞任                  會員進退 (明治26年上半年入会者198名, 退会者15名)                  報告書                  寄附                  會計決算書                  寄附書目及金員                  特に會員に告ぐ                  殖民協会規則                  役員姓名                  會員姓名 (會員増加21名)</p>	<p>39- 50</p> <p>51- 71</p> <p>総頁 71</p>
9	27.01.20	<p>殖民協会報告 墨國物産誌一斑 農産ノ部 (千八百九十二年八月廿一日                  刊行新約克ウオールド新聞抄訳)                  ○マゲイ ○甘蔗 ○珈琲 ○茶樹栽培 ○「カカオ」                  栽培 ○「ヴァニラ」栽培 ○玉蜀黍 ○煙草栽培                  纖維植物                  ○エネケン一名アゲープ ○マゲイ, マンソ ○「ピ                  タ」 ○ラミー ○サカシオン ○棉花 ○護謨樹                  果実                  ○芭蕉実 ○橙及鳳梨 ○刺梨 ○葡萄 ○桑樹 ○                  農産物雜種</p>	<p>1- 37</p>

			灌溉 裝飾用木材 染木 探検員渡辺氏ノ来翰(第三) 明治廿六年十一月廿日 タオンスビル発 39- 47 墨国「チャパス」州探検報告(十月五日トノラ発) 在墨 根本 正 49- 52 相川之賀君ノ経歴 附加奈多北太平洋沿岸事情 本庄京三郎記 53- 80 漁業 鮭 蠟燭魚 鮫 黒鱈 「ハラバ」(ヒラメ) 鮓(ヘ レン) 獸類 材木類 殖民事業ニ関スル相川君ノ意見 在留労働日本人賃金 雑録 81- 85 ○テハンテベック鉄道 ○布哇問題処分案 ○布哇近状 ○布哇国自由移住 ○小野弥一氏ノ死去 ○横浜移民合資会社 ○織田純一郎氏 ○根本氏ノ遊跡 会報 87-108 明治二六年十二月十四日墨国航路予算取調書提出 明治二六年十二月十四日評議員会 墨濠二航路ニ関スル意見書 墨国航路予算取調書 寄附書目 特に会員に告ぐ 殖民協会規則 役員姓名 会員姓名 総頁 108
10	27.02.17	殖民協会報告	白露国中央地探検報告(第八号ノ続) 英国白露会社探検委員クラーク氏編述 1- 20 「ベレネ」浜畔地方 ○気候 ○草木 蚕木 經濟的産物 ○「カカヲ」 ○「パニラ」 ○「イベカクアンハ」

		<p>○「チンチヨナ」 ○「コカ」 ○煙草 ○「アーナト」 ○蘇木 ○樹象 ○樹蠟 ○「ザビーザビー」</p> <p>○概況 ○拳薦スヘキ産物 ○現時ノ出路 ○勞力「ヒュアヌコ」地方</p> <p>拾遺</p> <p>墨国「ユウカタン」州 (Yucatan) ニ於ケル農業及労働 「メリダ」府 (Merida) 領事タムソン氏報告</p> <p>労働者ノ小屋及ヒ賃銀</p> <p>食物</p> <p>労働者ノ衣服</p> <p>借地料</p> <p>大麻</p> <p>「エネケン」輸出</p> <p>墨国「チャパス」州探検報告 (十二月七日テファンテペック発) 根本 正</p> <p>ソコムスコ郡加非耕地発見</p> <p>津田静一君談話要領 本庄京三郎筆記</p> <p>亜刺斯加 本庄京三郎抄訳</p> <p>雑録</p> <p>○布哇渡航ノ差留</p> <p>○布哇仮政府ノ常備兵</p> <p>○布哇合併党ノ哀訴</p> <p>○五千ノ支那人墨西哥ニ移住セントス</p> <p>○珍田領事グアテマラニ赴ク</p> <p>○海外殖民会資会社</p> <p>○海南ノ無人島</p> <p>○帝国領事館設置ノ請願</p> <p>会報</p> <p>明治廿六年下半年殖民協会収支計算書</p> <p>寄附書目</p> <p>特に會員に告ぐ</p> <p>殖民協会規則</p> <p>役員姓名</p> <p>會員姓名 (會員増加9名)</p>	<p>21- 30</p> <p>31- 36</p> <p>37- 40</p> <p>41- 56</p> <p>57- 65</p> <p>67- 81</p>	
		総頁	81	
11	27.03.21	殖民協会報告	<p>パラゲー国殖民事情 在倫動大越領事報告</p> <p>○位地 ○地味 ○人口及人種 ○氣候 ○交通運輸</p> <p>○開拓地及ヒ殖民 ○土地ニ適スル作物ノ種類 ○外国貿易 ○財政</p> <p>サースデー島真珠業ニ関スル松岡好一君ノ談話</p> <p>英領北「ボルネオ」土地及移民規則</p> <p>チウアウァ州墨国殖民及農業会社ニ関シタル談話</p> <p>質問者 根本 正</p> <p>答弁者 アレキサンダー、エフ、マクドナルド</p>	<p>1- 14</p> <p>15- 23</p> <p>25- 53</p> <p>55- 72</p>



			<p>第六 未墾地ノ開拓ニ要スヘキ藥品器械ノ種類及其代価如何日本農具ニシテ却リテ功用ノ彼レニ優レルモノ非サルカ</p> <p>第七 開拓ヲ終リタルトキ即時該地ヲ利用スルノ法如何且穀物野菜類ヲ培養シ得ルニ至ル順序年数如何</p> <p>第八 該開拓地ヨリ穀物野菜類ヲ收穫シ得ルニ至ラハ其收穫詳細ノ割合如何</p> <p>第九 開拓ヲ完了シタル地面ヲ売却セント欲スルトキハ其通常相場幾何ナルヤ</p> <p>第十 既墾地ニシテ穀物果実野菜類ヲ收穫シ得ヘキ熟田ノ売買相場幾何又地方ニ依レル區別如何</p> <p>第十一 阿華兩州ニ於テ産出スヘキ穀物果実野菜類ニシテ最も其地味ニ適遇シ市場ニ輸致シテ利潤ノ良好ナルモノハ如何</p> <p>第十二 現今不便ト雖モ地勢上後來鉄道ノ經過スヘキ望ミアル地方ニシテ極メテ人口稀少ナル場所アリヤ</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○珍田領事グァテマラ国取調ノ報告</li> <li>○海外移住民保護規則</li> <li>○欧米諸国人ノ労働日数</li> <li>○布哇近情</li> <li>○北太平洋海獣保護法案</li> <li>○移住民ノ出発</li> <li>○農会ニ於ケル殖民談</li> <li>○濠洲ニューコサウスウエールズノ養蚕</li> <li>○濠洲殖民地間労働問題</li> </ul> <p>会報</p> <p>第二回殖民演説会の景況 寄附書目 特に会員に告ぐ 殖民協会規則 役員姓名 会員姓名 (会員増加13名)</p>	<p>69- 83</p> <p>85-102</p> <p>総頁 102</p>
13	27.05.21	殖民協会報告	<p>墨西哥探検 根本 正</p> <p>第一章「チャパス」州探検 「チャパス」州「ソコヌスコ」郡、「チ、チャレス」郷ニ於テ珈琲栽培ニ関スル問答質問者 根本 正 珈琲栽培者「ビヘレノ」氏 「チャパス」州「ソコヌスコ」郡「クイルコビィホ」未開墾地 「チャパス」州「ソコヌスコ」郡官有地</p>	1- 31

「チャパス」州「ソコムスコ」郡産物  
「チャパス」州「ソコムスコ」郡輸出高  
「チャパス」州「ソコムスコ」郡風土病  
「チャパス」州「ソコムスコ」郡地方税  
「チャパス」州「トノラ」郡「マバステベック」未開墾地  
「チャパス」州「テウストラ」郡「サン、フィルナンド」村有地  
「チャパス」州「メスカラバン」郡私有地  
「チャパス」州「メスカラバン」ニ於ケル村有地  
「チャパス」州「テウストラ」郡ニ於ル官有地  
「チャパス」州「トナラ」港ニ於ケル輸出高  
「チャパス」州「トナラ」港ニ於ケル輸入高  
「チャパス」州麻苧栽培費用及収益  
「チャパス」州玉蜀黍及藍栽培費用及収益

濠洲クインスランド巡回報告 織田純一郎報告

33- 68

地理  
人口  
物産  
交通  
甘蔗耕区  
労働者ノ種類并国分  
労働者ノ賃銀  
日本移民ノ所在耕区及員数  
品等  
躰格  
能力  
労働  
飲食  
衣服  
家屋  
休日  
疾病  
死亡者  
将来ノ出稼  
将来ノ移住  
クインスランドノ糖業

瓜地馬羅国出稼ニ関スル意見

69- 77

第一、瓜国ノ氣候ハ我カ出稼人ニ適スルヤ否  
第二、瓜国雇主ハ我出稼人ニ対シ充分ノ賃銀ヲ払ヒ得ヘキヤ否  
第三、瓜国ノ労働者ニ関スル法律慣習ハ我出稼人ニ適スルヤ否

			<p>第四、出稼事業ノ成功ヲ期スル為メ何等ノ方法ヲ採ルヲ必要トスル乎</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○細則ト告示</li> <li>○海外探検旅行者懇親会</li> <li>○英国トサイベリア間ノ新航路</li> <li>○加奈陀濠洲間ノ新航路</li> <li>○濠米間ノ海底電線</li> <li>○米國殖民政府建設ノ計画</li> <li>○サモア島ノ騒乱</li> <li>○布哇ノ新憲法</li> <li>○旧布哇女王合併ノ企望</li> <li>○布哇出稼人募集</li> <li>○移民会社継起ス</li> <li>○移民身元引受人ニ関スル注意</li> <li>○トラック島事件</li> <li>○タウンズヴィル領事館設置</li> <li>○暹羅近信</li> <li>○相川氏ノ一行</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄附図書書目 特に会員に告ぐ 殖民協会規則 役員姓名 会員姓名〔会員増加22名〕</p>	<p>79- 90</p> <p>91-103</p> <p>総頁 103</p>
14	27.06.23	殖民協会報告	<p>墨西哥探検 (前号ノ続) 根本 正</p> <p>第二章「オハカ」州探検</p> <p>「オハカ」州「テファンテベック」郡</p> <p>「オハカ」州「フジタン」郡</p> <p>「オハカ」州「テファンテベック」郡「テウトラ」未開墾地</p> <p>「オハカ」州「フジタン」郡「ブステヨ」氏所有地</p> <p>「オハカ」州「フジタン」郡私有地</p> <p>「オハカ」州「フジタン」郡「ボカ, デル, モンテ」未開墾地</p> <p>「オハカ」州「フジタン」郡「サラビヤ」原野</p> <p>「テファンテベック」地峡小農</p> <p>「テファンテベック」地峡咖啡及玉蜀黍栽培計算</p> <p>「テファンテベック」地峡</p> <p>気候</p> <p>物産 (砂糖・カカオ・米・護謨・煙草・芭蕉ノ実・蜜柑・鳳梨・玉蜀黍・棉・牧畜・材木)</p> <p>運輸</p>	<p>1- 48</p>

「テファンテベック」物価表	
「テファンテベック」地峡鉄道竣工スルニ至リ哩数ヲ減スベキ距離比較表	
「オハカ」州「サリナ・クルス」港ニ於ル輸出高	
「オハカ」州「サリナ・クルス」港ニ於ル輸入高	
「オハカ」州「サリナ・クルス」港入船調	
第三章「ゲレロ」州探検	
「ゲレロ」州「タウレス」郡「サン、マルコス」農場	
「ゲレロ」州「アカブルコ」港ニ於ケル輸出高	
「ゲレロ」州「アカブルコ」港ニ於ケル輸入高	
「ゲレロ」州「アカブルコ」港入船数高	
「ゲレロ」州郡市人口	
「ゲレロ」州物産	
「ゲレロ」州ニ於ル重ナル病症	
「ゲレロ」州税	
「ゲレロ」違警罪罰金	
テハンテベック地峡鉄道概見(千八百八十四年三月十日「ツーリパブリック」新聞抄訳)	49- 58
雑録	59- 78
○サモア経略	
○仏国殖民省ヲ設置ス	
○布哇国大憲制定議会員選挙人	
○布哇国外国人上陸条例	
○クインスランド州日本人制限ノ議	
○在グアテマラ我労働者	
○英領印度ニ於ル本邦人ノ事業	
○南洋ニ於ケル日本人殺戮事件	
○朝鮮在留日本人	
○海外旅行券下付ノ数	
○関矢儀八郎氏	
○日本明治移民会社	
○布哇出稼人	
○孟買航路ノ調査	
○本邦移住民ニ関スル調査	
○移民ノ嘆願書	
○トラック島在留本邦人ト土人トノ葛藤ニ関スル記事(トラック島事件ニ遭遇シタル某氏日記中ヨリ抄出ス)	
○馬島人日本ノ声援ヲ乞フ	
○日露実業協会	
○北洋義団	
会報	79- 91
六月四日午後七時評議員会	
二七年六月一七日第二年総会於地学協会会堂	
榎本会長ノ演説	





			<p>○ストーン移民条例 ○加奈陀渡航労働者ノ減少 ○米清間ニ於ケル新移民条約</p> <p>会報 会報 寄附書目 新入会者 (計 三名) 特に会員に告ぐ</p>	<p>77- 79</p> <p>総頁 79</p>
18	27.10.20	殖民協会報告	<p>藤田敏郎氏ノ墨国実況ニ関スル談話 暹羅探検報告 日本吉佐移民会社特派 鈴木錠蔵 緒言 暹羅探検報告 暹羅殖民策 英領哥倫比亞地方探検報告 在暹香坡領事館清水精三郎 第一 調査ノ手續 第二 総況 英領哥倫比亞州 ウィリアムマクレネー氏報告書訳本 日本人ノ移住ニ適スル土地 総論</p> <p>雑録 ○根本正氏ノ消息 ○西印度ニ移民ノ出発 ○布哇出稼人ノ出帆 ○西班牙学協会学事ノ状況 ○北米合衆国改正関税法 ○戦勝後ノ移民策 ○布哇国労働調査委員設置法令 ○東殖民軍ヲ墨西哥ニ出セ ○正誤</p> <p>会報 会報 寄附書目 新入会者 (計 二五名) 特に会員に告ぐ</p>	<p>1- 10 11- 42 43- 82 83- 96 97-100</p> <p>総頁 100</p>
19	27.11.不	殖民協会報告	<p>南遊紀行 附秘魯事情 南米秘魯国探検者 青柳郁太郎 パナマ鉄道 パナマ運河 チャンチャマヨ及ベレ子一殖民地探検記 秘魯事情 概論</p>	<p>1- 46</p>

			歴史 鉱業 貿易 殖民 秘魯ニ対スル私見 太平洋沿岸地方探検報告 太平洋沿岸之地勢 太平洋沿岸之鉄道 太平洋沿岸之富源 太平洋沿岸之氣候 太平洋沿岸ニ於ケル住民ノ氣風及文化 南カリホルニヤ之概況 西オレゴン之概況 アイダホ之概況 新メキシコ及アリゾナノ概況 コロラド広原ノ概況 インデオ地方ノ概況 合衆国官有地及其私下ニ関スル法律 荒地私下条例 宅地条例 雜録 ○軍夫ノ将来ニ就テ ○メール新聞ノ出稼批評 ○仏国昨年中ノ同盟罷工 ○出稼支那人ノ寄港 ○移住民ノ軍資金献納 ○布哇近情 ○支那ノ經濟及産業一斑 ○世界諸国海軍及会場貿易ノ比較 ○米國トノ条約改正 会報 会報 寄附書目 入会者（計 十八名） 特に會員に告ぐ	菅原 伝・日向 武 47- 95 97-111 113-116 総頁 116
20	27.12.20	殖民協會報告	南洋航海日記 南米社会ノ觀察及ヒ希望 馬列半島南部西岸諸国巡察記 セランゴール国 總説 農業 雜録 ○暹羅移住	土肥兼次郎 青柳郁太郎 63- 86 在新嘉坡領事 齊藤 幹報 87-105

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○墨国ニ於ケル橋口氏</li> <li>○南洋行</li> <li>○マニラノ地方博覧会</li> <li>○全国農事大会</li> <li>○全国実業家大演説会</li> <li>○中央亞米利加及ヒ南米諸国トノ条約改正</li> <li>○北水洋探検者ノ帰朝</li> <li>○領事ノ帰朝</li> <li>○大西洋ヲ航海シタル最迅速ノ汽船</li> <li>○パナマ運河ノ落成希望</li> <li>○北米合衆国ニ於ケル銀ノ動静</li> <li>○布哇ノ通信五件</li> <li>○露国カムサツカ出稼漁業業者</li> <li>○露国南島蘇里利州ノ移住民数</li> <li>○仙台丸ノ消息</li> <li>○南洋貿易拓殖及ヒ探検家懇親会</li> <li>○仏国ト馬島</li> <li>○英領加奈陀ト北米合衆国トノ新関税率ノ対照</li> <li>○賀来氏ノ訃音</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄附書目</p> <p>新入会者〔計 二十二名〕</p> <p>特に会員に告ぐ</p> <p>殖民協会規則</p> <p>役員姓名</p> <p>会員姓名</p>	107-120
				総頁 120
21	28.01.19	殖民協会報告	<p>中米<u>グアテマラ</u>共和国探検談</p> <p>北米<u>ワシントン</u>州<u>タコマ</u>市殖民同盟会委員伊藤米次郎</p> <p>概論</p> <p><u>グアテマラ</u>国</p> <p>地勢</p> <p>動植物</p> <p>鉱物</p> <p>噴火山</p> <p>湖水及ヒ河川</p> <p>港湾</p> <p>温泉</p> <p>社会ノ有様</p> <p>天然ノ富厚</p> <p>土着産物</p> <p>殖産及ヒ商業</p> <p>交通方法</p> <p>制度典章</p>	1- 26



			<p>○根本正氏ノ書信                  ○布哇王党革命擾乱ノ詳報                  ○濠洲メルボルン商業會議所員ノ來朝                  ○濠洲ヨリノ通信                  ○會員ノ渡來                  ○列國労働者保護會議                  ○囚人ヲ占領地ニ移住セシムルノ議                  ○韓清語學校                  ○戰勝後ノ移民計畫                  ○仁川ニ於ケル日本民留民ノ戸口數                  ○西伯利本年移住民ノ増加</p> <p>會報                  會報                  寄附書目                  新入會者〔計 四〇名〕                  外國汽船横浜發着表 二十八年二、三兩月分</p>		83- 89
					總頁 89
23	28.03.22	殖民協會報告	<p>墨西哥探檢復命書                  探檢記事                  タバチュラ市到着後技師トノ談話                  タナカ山腹地踏見                  氣候                  道路運搬                  水利                  地質                  鄙見                  新殖民地発見                  實地探檢ノ処見                  其土地ノ区画及價格                  其運搬                  其氣候                  タバチュラ地方ノ狀況                  第一 氣候                  第二 種族風習                  第三 通貨                  農業ノ一斑                  備主ト労働者トノ關係                  日本人ニ對スル感情ノ一斑                  テフアンテベック鐵道ノ狀況                  殖民大臣ニ面謁                  大統領謁見                  鄙見結論                  濠洲線ト孟買線                  英領海峽殖民地商況</p>	橋口 文蔵	1- 49
				佐久間貞一 在新嘉坡領事 齊藤 幹	51- 58 59- 93



パラナ州  
 サンタ, カサリナ州  
 リオ, デ, グランデ, ソール州  
 ゴヤス州  
 マトグロソー州

第五章 産物

農産  
 山林及果物  
 鉱山

第六章 運輸

水運水利  
 電信  
 汽船

第七章 通商貿易

第八章 度量衡

第九章 財政

第十章 政治

(ブラジル探検誌完)

台湾島

編者

55- 71

位置 面積 人口  
 地勢 土壤 気候  
 港湾 属島 行政区画  
 西部台湾  
 東部台湾  
 産業

雑録

73- 91

- 濠洲フィジー島移民始末
- 海外移住殖民ニ属スル建議案 (山下千代雄他三名提出)
- 太平洋海底電線將ニ成ラントス
- 布哇国日本出稼人ノ総数及ビ回数 (布哇新報)
- 布哇王党内乱者ノ裁判宣言
- 旧女王宣告セラル
- ニカラグア運河ノ利益
- 英国ノ海外出稼人
- 本邦ノ海外渡航者
- 移民会社ノ偽名
- 布哇移住民局事務員並ニ出稼人ノ帰朝
- 暹羅殖民会社

会報

93- 97

評議員ノ選任  
 寄附書目  
 新入会者〔計 三二名〕  
 外国汽船横浜発着表 二十八年四, 五両月分

総頁 97

25	28.05.25	殖民協會報告	<p>西印度ゴアデルプ島探検誌 <span style="float: right;">根本 正</span></p> <p>第一章 総論</p> <p>第二章 地理</p> <p>    ゴアデルプ島</p> <p>    グラント, テール島</p> <p>    ゴアデルプ附屬地</p> <p>    ゴアデルプ及其附屬地の面積</p> <p>    ゴアデルプ及其屬地の人口</p> <p>第三章 氣候及氣象</p> <p>    西印度地方ニ於ケル台風ノ調査</p> <p>    西印度ノ台風</p> <p>    北風, 激潮, 及潮汐</p> <p>第四章 物産及工業</p> <p>第五章 通商運輸及歳出入</p> <p>    道路航行之ヘキ河川</p> <p>第六章 労働規則</p> <p>第七章 行政区画及教育</p> <p>    ゴアデルプ地方動物一斑</p> <p>    教育 <span style="float: right;">(ゴアデルプ探検誌完)</span></p> <p>英領コロンビヤ州フレザー河鱒漁及鮭製造法ノ調査 <span style="float: right;">54- 78</span></p> <p style="text-align: right;">前田謹一郎報告</p> <p>(一) 英領コロンビヤ州漁業上ノ小歴史</p> <p>(二) 英領コロンビヤ州ルール島</p> <p>(三) 漁撈</p> <p>    第一 流網</p> <p>    第二 漁船</p> <p>    第三 使用法</p> <p>    第四 禁漁日ノ漁夫</p> <p>(四) 罐詰製造法</p> <p>(五) 統計表</p> <p>    第一 英領コロンビヤ州鮭魚罐詰ノ総統計</p> <p>        千八百九十三年及同九十四年度</p> <p>    第二 各漁場鮭魚罐詰場ニ係ル統計</p> <p>        千八百九十三年度</p> <p>    第三 英領コロンビヤ州輸出物産表</p> <p>        千八百七十二年ヨリ同九十四年六月三十日迄ニ</p> <p>        至ル廿三ヶ年間</p> <p>    第四 英領コロンビヤ州漁夫及漁具ノ数(千八百八十八年調)</p> <p>        鮭罐詰輸出先キノ国別(千八百八十九年及九十年</p> <p>        年度)</p> <p>(六) 英領コロンビヤ州漁業製造家ノ精神</p> <p>雜録</p> <p>    ○墨国大統領ダイヤス氏ノ教書 <span style="float: right;">79- 96</span></p>
----	----------	--------	--





榎本武揚と殖民協会(1) (角山)

231

		会報		87- 90	
		自明治二十八年一月至同六月殖民協会収支計算書 寄附金及書目 新入会者〔計 九名〕			
				総頁 90	
28	28.08.23	殖民協会報告	中米瓦地馬拉探検誌 位置及面積 地勢 植物及動物 鉱物 火山 湖及河 港湾 鉱泉 社会ノ状態 財源 気候及産物 珈琲ノ産出額及其培養費 工業及商業 交通 政治及法律 政躰 教育 警察 工事 郵便及電信 軍備 財政 内国税 労働法 濠洲クインスランド移住案内 第六 クインスランド移民事業ト日濠航路ノ關係 第七 移民事業拡張ノ方法 英領コロンビヤ州事情並ニ在留本邦人ノ状況 在暎香港領事 能勢辰五郎 雑録 ○墨国鉄道布設契約要領 ○南洋貿易ノ現況及将来 ○藤田敏郎氏ノ安着 ○ポートランド新航路 ○フィリッピン群島ト西班牙本国トノ貿易 ○濠洲ノ日本人排斥運動 ○墨国銀本位ノ利害	根本 正 小林直太郎	1- 40 41- 52 53- 77 79- 95
		会報		97-100	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○評議員会</li> <li>○凱旋賀表奉呈</li> <li>○常置委員ノ指名嘱托</li> <li>○墨国移住組合常置委員会</li> <li>○寄附書目</li> <li>○新入会者〔計 十一名〕</li> </ul>	総頁 100
29	28.09.21	殖民協会報告	<p>サースデー島及トレス島海峡探検報告 渡辺勘十郎</p> <p>サースデー島ノ形勢          氣候地質及水利          政治警察及社会上ノ状態          外国移住民ノ種類及其産業          商工業及輸出入ノ景況          当地ニ於ケル一人一家ノ生計費          真珠貝採拾ノ景況          在留日本人ノ情態</p> <p>西伯利地誌概要          西伯利位置及地勢          氣候及天産物          農業工業及交易          土人          運輸及交通          行政区画 面積及人口ノ割合</p> <p>朝鮮国忠清道巡回報告 二十八年五月一日付          在仁川日本領事館</p> <p>経過ノ路筋          地理概説          村落及人民生活ノ状況 付人口          農業          各種産業</p> <p>雑録          ○キューバ島ノ独立戦争          ○米国市場ニ於ケル墨国農産物ノ市価          ○ロウカリホルニヤ州ニ於ケル鉱業          ○クインスランドニ於ケル糖業ノ模様          ○墨国ノ進歩          ○北太平洋上航運ノ競争（二十八年七月三十一日在晚          香坡領事館報告）          ○対外貿易ト植民政略          ○布哇ニ於ケル労働者ノ需用          ○英国々防税負担ノ割合          ○フィリッピン群島ノ商況          ○海外旅券下付数          ○馬來半島新連合国ノ組織</p>	<p>1- 50</p> <p>51- 67</p> <p>68- 94</p> <p>95-120</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○後藤十六郎ノ訃音</li> <li>○濠洲移民ノ送金高</li> </ul> <p>会報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○寄附書目</li> <li>○新入会者〔計 四名〕</li> <li>○役員姓名</li> <li>○会員姓名〔合計九百四名〕</li> </ul>	120-130
				総頁 130
30	28.10.25	殖民協会報告	<p>殖民政略 <span style="float: right;">板垣退助</span></p> <p>テハンテベック横断鉄道 <span style="float: right;">ライマンブリッジス説明</span></p> <p style="text-align: right;">編者訳</p> <p>墨国鉄道ノ落成</p> <p>両端築港ノ設計</p> <p>通商捷路ノ開通</p> <p>太平洋沿岸航海ノ便益</p> <p>哩程ノ減縮</p> <p>トレス海峡探検日記 <span style="float: right;">在サースデー島 辻謙之助</span></p> <p>朝鮮国忠清道地方巡回報告 <span style="float: right;">仁川 日本領事館</span></p> <p>商業</p> <p>交通運輸</p> <p>外国輸出入品ノ商業</p> <p>産業上ニ関スル政治</p> <p>印度内地巡回復命書 二十八年七月八日付 <span style="float: right;">在孟買領事館報告</span></p> <p>上篇 印度全体概説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一、総論</li> <li>二、地理</li> <li>三、天候</li> <li>四、人種風俗</li> <li>五、農業</li> <li>六、工業</li> <li>七、貿易</li> <li>八、行政組織</li> </ul> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○在濠洲橋本好友氏ノ書信</li> <li>○濠洲郵便船ニ対スル英国政府ノ補助</li> <li>○マニラニ於ケル日本人ノ近状</li> <li>○欧州語ヲ使用スル人口ノ比較</li> <li>○台湾ト墨国ト気候ノ比較</li> <li>○移住民保護法出ントス</li> <li>○安井万吉氏ノ名譽</li> <li>○熊本県人ノ台湾移住</li> <li>○本邦公債証書ノ信用</li> <li>○鎌原氏ノ近状</li> </ul>	<p>1- 8</p> <p>9- 14</p> <p>15- 24</p> <p>25- 50</p> <p>51- 71</p> <p>73- 93</p>

			<p>○時論ノ趨勢</p> <p>○合衆国棉花ノ産額其輸出價格ノ変動并ニ日米間ノ綿貿易(二十八年八月廿二日付在紐育領事館報告)</p> <p>会報</p> <p>評議員会</p> <p>演説会</p> <p>馬來半島探検</p> <p>寄附書目</p> <p>新入会者〔計 十一名〕</p>	<p>95- 97</p> <p>総頁 97</p>
31	28.11.29	殖民協会報告	<p>台湾事情(十二月二十日殖民協会ニ於テ)</p> <p>橋口文蔵演説</p> <p>北米合衆国アイダホ州移民探検報告 在桑港日本領事館</p> <p>愛多圓探検報告 (成田安輝報)</p> <p>○第一章 歴史</p> <p>○第二章 地形・氣候・水利・動植物・交通・運搬・農工商業ノ概況</p> <p>印度内地巡回復命書 在印度孟買領事館報告</p> <p>中編</p> <p>一, 孟買ナグブル市間</p> <p>二, ナグブル市</p> <p>三, ナグブル市ヨリカルカッタ市ニ到ル</p> <p>四, ベンゴール炭業</p> <p>五, カルカッタ市</p> <p>○カルカッタ市へ輸入品陸揚諸掛費</p> <p>○カルカッタ市へ輸出品船積諸掛費</p> <p>本邦カルカッタ市間四年館輸出入比較</p> <p>六, 大日林茶業</p> <p>ベンゴール府内二大茶産地統計</p> <p>七, カルカッタ市ヨリベナレス, アラハバッド, アグラ, デリーノ四市ヲ經テ孟買ニ至ル</p> <p>台湾茶業実査報告書 会員 鎌原幸治</p> <p>雑録</p> <p>○富山氏ノ群島事件</p> <p>○航海ト移民</p> <p>○布哇出稼人</p> <p>○台湾ノ稻作及雜件</p> <p>○墨国公使日本紅茶ノ輸出ヲ勧誘ス</p> <p>○会員伴新三郎ノ近況</p> <p>○海外移民談</p> <p>○日本人真珠業ノ禁止</p> <p>会報</p> <p>○馬來半島探検者ノ出立</p> <p>○評議員会</p>	<p>1- 21</p> <p>23- 64</p> <p>65- 95</p> <p>97-110</p> <p>111-133</p> <p>133-136</p>



			外国移民ト内国移民 移民事業ト貨幣問題 移民ノ種類 未来ノ移民事業 ○条約規定適用地追加 ○日布間ノ特約航行船 ○クウィーンズランド嶋ト日本移住民 ○布哇出稼人ノ情况 会報 ○橋口文蔵氏 ○会員伊藤幸吉郎氏 ○評議員会 寄附書目	97- 98
				総頁 98
33	29.01.28	殖民協会報告	南征紀行及サースデー島 濠洲クィンズランド, サースデー島ニテ 会員 杉山源作 印度内地巡回復命書 在印度孟買領事館報告 下編(甲) 一, マドラス地方 二, マドラス港 三, 日本マドラス間貿易ノ現況及将来 四, 日本マドラス間ノ海運 五, 日本マドラス間ノ貿易品(其一) 六, 日本マドラス間ノ貿易品(其二) 雑録 ○墨国通信(廿八年十二月三日付) ○布哇出稼人ノ状況(去年「ホノルル」総領事館書記生新国千代橋氏布哇国俄亜布島巡回ノ報告) ○海外出稼人 ○伊沢氏ノ台湾談 ○日本移住地ニ体育会ヲ設置スヘシ(外人評語) ○濠洲視察員ノ談話 ○暹羅盤谷府ノ形況(国民新聞) ○露国出稼人ノ状況 ○日本ノ信用 ○モア紀行 ○布哇出稼人ノ帰朝 ○布哇島ノ事情 ○時事新報ノ移民論 ○会員土肥兼次郎氏ノ帰朝 ○会員荒井達弥氏 ○会員富山駒吉氏 ○会員石原柳二氏 ○会員枝元長辰氏	1- 16 17- 43 45- 80

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○進運日記</li> <li>会報</li> <li>○墨国移住組合</li> <li>○評議員会</li> <li>○明治廿八年下半年収支計算書</li> <li>○寄附金及書目</li> <li>○新入会者〔計 十五名〕</li> <li>○会員姓名〔合計 九百二十九名〕</li> </ul>	81- 94
				総頁 94
34	29.02.25	殖民協会報告	<p>布哇島巡回復命書 在ホノルル領事館書記生成田五郎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○製糖所及耕地等ノ状態</li> <li>○製糖会社規模要領一覽表</li> <li>○出稼人衣食住等ノ概略</li> <li>○其二</li> <li>○其三</li> <li>○其四</li> <li>○布哇国ニ於ケル商況</li> <li>○在布哇島日本商人一覽表</li> <li>○明治廿八年三月中布哇島ニ於ケル日本品小売價格表</li> <li>○布哇島プナ郡ラーラー珈琲耕地ノ状況</li> <li>○ラーラー珈琲事業ニ関スル実業家ノ報告</li> <li>○耕作ノ方法</li> <li>○ラーラーニ於テ珈琲栽培ニ従事スル日本人名等一覽表</li> </ul> <p>マレー半島視察ノ記 会員 青柳郁太郎</p> <p>ムーア農業鄙見</p> <p>珈琲培養収支予算書</p> <p>「ガンビニア」</p> <p>印度内地巡回復命書 (下篇乙「ブローチ」棉地方) 在印度孟買領事館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ブローチ」棉</li> <li>第一 産地</li> <li>第二 栽培</li> <li>第三 産額</li> <li>第四 綿繰及俵装工場</li> <li>第五 不正混綿</li> <li>第六 積出</li> <li>第七 季節</li> <li>第八 品質及品種</li> <li>第九 価格</li> </ul>	1- 31
				33- 62
				63- 72
			<p>雜録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太平洋海底電線ト英国殖民大臣</li> <li>○濠洲ノ凶歲</li> <li>○移民三十万</li> </ul>	73- 92

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○時事新報ノ移民論</li> <li>○西伯利亜移民ノ情況調査</li> <li>○布哇貿易貨物輸送ニ就テ</li> <li>○布哇貿易</li> <li>○西班牙ノ貨幣改正</li> <li>○日濠貿易ノ拡張</li> <li>○黒龍江沿道移住民景況</li> <li>○布哇彙報</li> <li>○倫敦商業會議所ノ極東問題</li> <li>○濠洲木曜島ノ近信</li> <li>○米国出稼支那人ノ寄港</li> <li>○グアトロープ出稼人帰途ニ上ル</li> <li>○出稼人二万人ノ募集</li> <li>○進運日記(二)</li> </ul> <p>会報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○評議員会及總會</li> <li>○寄附金及書目</li> </ul>	<p>93</p> <p>総頁 93</p>
35	29.03.25	殖民協會報告	<p>布哇国ノ商況及本邦人出稼ノ狀況 在ホノルル総領事館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○布哇国ノ商業概況</li> <li>○輸入品国別価額一覽表</li> <li>○農業概説</li> <li>○製糖業経営ノ有様</li> <li>○日本出稼人の業務及其状態</li> <li>○傭者及日本出稼人間葛藤ノ減少</li> </ul> <p>北米タコマ事情 在タコマ領事館報告</p> <p>移民保護法案ニ対スル殖民協會ノ意見</p> <p>マレー半島横断鉄道</p> <p>マンチエスター地学協會名誉書記 ゼー, エッチ, リード氏</p> <p>雜録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○濠洲居留ノ本邦人</li> <li>○西伯利移住民補助費</li> <li>○濠洲ト日英条約</li> <li>○海外渡航者</li> <li>○移民保護談(毎日新聞掲クル処)</li> <li>○本年度ノ西伯利移住民</li> <li>○南洋貿易商会ト大井憲太郎氏</li> <li>○排日本ノ気焰</li> <li>○コルサコック航路</li> <li>○布哇ニ於ケル日本人</li> <li>○仏国外交官ノ機敏</li> <li>○日本製造品輸入防止ノ議</li> <li>○海外ノ新郷里(二月廿三日時事新報)</li> </ul>	<p>1- 12</p> <p>13- 19</p> <p>21- 31</p> <p>33- 38</p> <p>39- 71</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外渡航会社</li> <li>○暹羅事情</li> <li>○會員松岡好一氏</li> <li>○會員辻謙之介氏</li> <li>○移民保護法</li> <li>○杉山源作氏ノ通信</li> <li>進運日記 (三)</li> </ul>	73- 85
			<p>会報</p> <p>殖民協会第四回總會 (三月四日午後於芝公園紅葉館)                  明治廿八年一月ヨリ同十二月ニ至ル殖民協会事務報告                  入退會者(入會者數217名, 退會者29名, 死亡7名, 現在員數935名)                  自明治廿八年一月至同十二月殖民協会収支計算書                  寄附書目                  新入會者 (計 十一名)</p>	総頁 85
36	29.04.28	殖民協会報告	<p>布哇国ノ商況並本邦出稼人ノ情況 (承前)                  在ホノルル総領事館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本品商業ノ發達</li> <li>○当国労働問題ノ現況</li> <li>○オアフ島諸耕地ノ現況</li> <li>○カワイ島諸耕地ノ現況</li> <li>○マウイ島諸耕地ノ現況</li> </ul> <p>馬尼刺内地紀行</p> <p>馬尼刺近傍ノ紀事                  農業ノ事</p> <p>馬尼刺近傍ノ紀事                  農業ノ事</p> <p>墨国通商上ノ公道                  鉄道                  安西唯三郎抄録</p> <p>雜録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○加奈陀議會ト日本出稼人</li> <li>○日本ト濠洲トノ条約</li> <li>○布哇ニ於ケル日本人</li> <li>○台湾雜聞                      農業                      商売                      養蚕                      販牛</li> <li>○黒龍沿道總督ノ拓殖方針</li> <li>○比公ノ殖民談</li> <li>○西伯利出稼人</li> <li>○南洋ニ於テ赤山白三郎氏遭難ノ詳報</li> <li>○マダガスカルノ真情</li> </ul>	<p>1- 12</p> <p>13- 41</p> <p>43- 46</p> <p>47- 92</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○英國殖民政略ノ失敗 (トランスヴァル事件毎日新聞抄録)</li> <li>○台湾大姑陥河上流ノ生蕃</li> <li>○仏領印度支那殖民地ノ貿易</li> <li>○露国殖民船ノ惨状</li> <li>○室田墨西哥総領事日報社員ヘノ談話</li> <li>○布哇米人ノ日布条約廃止論</li> <li>○暹羅通信 (国民新聞抄録)</li> <li>○独逸殖民会社</li> <li>○濠洲シドニー片信 (二月二十日付発日本所載)</li> <li>○首相ノ総会</li> <li>○南洋輸入貿易ノ直段騰貴</li> <li>○小笠原帰化人ト千島土人</li> <li>○布哇島ト日本品ノ販路</li> <li>○暹羅ノ紳士ナイウラム君</li> <li>○濠洲ト日本人</li> <li>○米国西部ニ於ル日本労働者</li> <li>○移民保護法</li> <li>○会員石原哲之介氏</li> <li>○会員恒屋盛服氏</li> </ul>	
			進運日記 (四)	
			会報	93- 94
			寄附書目	
			新入会者 (計 十三名)	
				総頁 94
37	29.05.31	殖民協会報告	馬尼刺内地紀行 (二) 馬尼刺市 墨国珈琲培養法 <span style="float: right;">在墨府総領事館</span> 布哇国ノ戸籍法 メキシコ, グアテマラ間ノ鉄道 雑録 <ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道ニ於ケル耕地</li> <li>○台湾産物ノ概況</li> <li>○日本人生活ノ簡易</li> <li>○近衛公爵ノ北海道談話</li> <li>○世界最劣等ノ人種</li> <li>○吉佐移民会社</li> <li>○移住者八千</li> <li>○本年ノ西伯利移住民</li> <li>○台湾ノ移住ニ就テ</li> <li>○吉佐移民会社ノ移民事業</li> <li>○条約出稼人満期</li> <li>○海外渡航募集人員</li> <li>○布哇ニ於ケル下等船客上陸ノ制限</li> </ul>	1- 20 21- 44 45- 46 47- 48 49- 67



			<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本ノ製造品ト米国議院</li> <li>○千島移民保護費ノ下付</li> <li>○馬來半島在留日本人</li> <li>○團結移住</li> <li>○和歌山県下ノ海外出稼人</li> <li>○亞非利加ノ那翁</li> <li>○米國々会ノ移住問題</li> <li>○仏國殖民省ノ組織改正</li> <li>○ブラジル移民ノ大計画</li> <li>○日本ニ注意セヨ</li> <li>○新嘉坡通信(東京日々新聞)</li> <li>○プロウエー島開港</li> <li>○日本布哇間定期航海</li> <li>○報效義会ノ事業ト規約</li> <li>○墨國移住組合</li> <li>○會員根本正, 草鹿砥寅二氏</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄附書目</p> <p>新入会者〔計 十四名〕</p>	105-106
				総頁 106
39	29.07.30	殖民協会報告	<p>馬尼刺(マニラ)内地紀行(四)</p> <p>政治及地方行政</p> <p>清国出張復命書(前号続稿)</p> <p>〔沙市〕商業区域・商業盛衰・運送・貨物集散・物価・商業慣習倉庫問屋・金融・地価家賃給金</p> <p>〔漢口〕漢口港・地位人口・貨物集散・漢口港商品集散概表・運送・商業慣習・日用品價格給金生活</p> <p>〔宜昌〕宜昌港・位置人口・貿易税関居留地・運輸倉庫問屋・商業慣習・物価給金・金融会館</p> <p>墨国珈琲培養法(承前) 在墨府総領事館</p> <p>○乾種製法</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○米国移民条例改正案</li> <li>○海外移住民ノ近状ニ就テ</li> <li>○台湾ノ行政</li> <li>○無人島ノ探検</li> <li>○台湾移住規制</li> <li>○山田代議士ノ台湾視察報告</li> <li>○暹羅ニ於ケル日本人ノ事業</li> <li>○移民事業</li> <li>○歐人ノ亞米利加移住(農民ハ南米ニ行キ工商ハ北米ニ行ク)</li> <li>○国際上ノ嫉妬(東京日々新聞)</li> </ul>	1- 22 23- 50 51- 63 67-100

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外移民取扱業</li> <li>○濠洲貿易</li> <li>○布哇移民事業</li> <li>○伊藤首相ノ演説</li> <li>○馬尼刺異聞</li> <li>○日本労働者排斥運動</li> <li>○東洋汽船会社ノ航路</li> </ul> <p>会報 自明治二十九年一月至同六月上半期殖民協会収支計算書</p> <p>寄付書目 新入会者〔計 三名〕 殖民協会規則 役員氏名 会員諸君に告ぐ</p>	101-107
				総頁 107
40	29.08.31	殖民協会報告	<p>布哇国糖業及労働者ノ状況 在布哇 会員渡辺勘十郎 清国出張復命書 (前号続稿) 〔重慶府〕 輸出入・物産・戸数人口・人情・気候 附物 価 金融・通貨・商慣習・郵便電信・会館 〔長江航路〕 馬尼刺内地紀行 (五) 珈琲 (「アラビヤ」珈琲)</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○海外出稼ノ大利益</li> <li>○墨国移住組合ノ派遣員ト米国ノ諸新聞</li> <li>○ブラジル国情 (日本今後ノ殖民地) (毎日新聞)</li> <li>○移民会社</li> <li>○英国殖民地ノ分離独立</li> <li>○三池丸ノ米国初航海</li> <li>○大阪ノ移民会社設立計画</li> <li>○濠洲出稼人ノ為替金</li> <li>○排斥運動 (邦人ニ対スル)</li> <li>○トラック島事件</li> <li>○クインズランドノ移住民</li> <li>○加奈多議会 (ロンドン特報)</li> <li>○哥倫比亞州鮭及本邦漁民近状</li> <li>○排日本人</li> <li>○出稼人夫ノ暴動トハ三名ノ就縛</li> <li>○レバプリカン党ノ宣言書</li> <li>○台湾ノ経緯</li> <li>○日本移住民ニ関スル米新聞ノ評</li> <li>○日濠貿易会社ト濠洲トレース海峡</li> <li>○墨国軍艦員饗応</li> </ul>	1- 26 27- 48  49- 55  57- 96



			<p>ユウ, エン, アームストロング氏ノ報告・支那移民・北部欧羅巴ヨリノ移民・日本移民・統計表・亜米利加移民・他ノ各国ヨリ計画セル誘導物・結論</p> <p>馬尼刺内地紀行 (七)</p> <p>烟草</p> <p>清国杭州事情(二十九年六月十三日付在杭州領事館報告)</p> <p>雑録</p> <p>○<u>テファンテピツキ</u>探査会社(ゼー, メキシカン, フィナンシア第廿七卷第廿六号ニ拠ル)</p> <p>○墨国税則ノ改正(二十九年五月二十日付在墨府総領事館報告)</p> <p>○馬尼刺雜事(馬尼刺内地紀行ヲ參看スヘシ)</p> <p>○墨国ノ財政(自千八百九十六年至千八百九十七年)</p> <p>○比律賓群島ノ増税并叛乱ノ為メ馬尼刺港貿易一時ノ停止</p> <p>(二十九年九月二十一日在香港領事館報告)</p> <p>○布哇政府ノ労働者制限</p> <p>○濠洲ノ婦人本部ニ渡来セントス</p> <p>○会社ノ発起願</p> <p>○本年上半期ノ移民数</p> <p>○布哇政府ノ労働制限</p> <p>○移住民制限問題</p> <p>○移住民制限問題</p> <p>○在トラック島ノ日本人</p> <p>○山口熊野氏ノ帰朝</p> <p>○真珠採集業ニ関スル好報</p> <p>○公使館領事館ノ増設</p> <p>○日本移民策</p> <p>○海外移民会社ノ認可</p> <p>○中村弥六氏ノ暹羅行</p> <p>○濠洲航路ノ開始</p> <p>○比律賓叛乱ト我國民</p> <p>会報</p> <p>寄附書目</p>	<p>17- 27</p> <p>29- 52</p> <p>53 77</p> <p>79</p>
				<p>総頁 79</p>
43	29.12.05	殖民協会報告	<p>墨国通商上ノ大道(其三)</p> <p>舟行ニ適スル河流及ヒ運河・港湾・航路・官道及ヒ駅</p> <p>道</p> <p>馬尼刺内地紀行(八)</p> <p>非立比歲出入・カウイテー造兵廠</p> <p>廿八年中布哇國貿易並ニ同国ニ於ケル本邦移住民ノ景況</p> <p>年報</p> <p>在<u>ホノルル</u> 総領事館</p> <p>輸出ノ部・輸入ノ部・港別輸入表・ホノルル港輸入品</p>	<p>1- 18</p> <p>19- 40</p> <p>41- 69</p>

			<p>名価額表・国別輸入表・自明治十九年至明治廿八年十ヶ年間輸出入増減比較表・廿八年帰国人員・昨廿八年中渡米シタル人員ハ左ノ如シ・明治廿八年中出産人員・明治廿八年中死亡人員・廿八年度在ホノルル本邦人死亡者病症類別・ホノルル府公立病院ニ於ケル本邦人患者・出稼人尅割五歩預金・明治廿八年中出稼人尅割五分預金受入高明細・明治廿八年本邦ヘ向ケタル諸送金明細・明治廿八年中横浜本店ヘノ通知預金、定期預金、為換券仕払高、荷為替金高口数及人員・現在官約人員・已往十一年間官約出稼人來着人員・同上帰朝人員・約定満期在留人員・布哇国製糖使用ノ日本出稼人員・非会社組織砂糖耕地一覽・既往十一年間日本人來着・既往十一年間帰国人員</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○西伯利移住</li> <li>○外国製諸証書類証明法(廿九年十一月十二日官報第四〇一三號抄)</li> <li>○濠洲ニ於ケル我労働者</li> <li>○布哇ノ富商鈴木国蔵(毎日新聞)</li> <li>○孟買近信</li> <li>○対濠洲問題</li> <li>○濠洲ノ亜細亞人移住制限ノ原因</li> <li>○米国移住民</li> <li>○南濠洲ノ移住制限案(倫敦十一月十四日発)</li> <li>○墨国特報(十月十九日時事新報) 孤劍生</li> <li>○本邦労働者ノ需要(北ボルネオニ於テ)</li> <li>○珈琲山紀行(未完)</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄附書目</p> <p>新入会者(計 十名)</p>	<p>71-103</p> <p>105-106</p> <p>総頁 106</p>
44	29.12.28	殖民協会報告	<p>馬尼刺内地紀行(ハノ上)</p> <p>回々教徒及ビ南方種族</p> <p>杭州ニ於ケル錢塘江ノ関係</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○墨国農業勸業殖民会社ノ略歴</li> <li>○露領移住ノ朝鮮人</li> <li>○台湾ノ米作ト将来ノ移民</li> <li>○加奈太ノ外国移住民ニ対スル真相</li> <li>○万国郵便条約加盟</li> <li>○墨西哥ニ於ケル珈琲(報告第卅七号已下墨国珈琲培養法ヲ參看)</li> <li>墨西哥ノ珈琲産地</li> <li>一千八百九十五年ノ珈琲收穫額</li> </ul>	<p>1- 25</p> <p>33- 75</p>

			墨西哥産咖啡ノ種類 土壤及ビ氣候 咖啡ノ増植 投資ノ好機期 第二年報 ○布哇ニ於ル日本人上陸問題 ○太平洋海底電線問題 ○墨国土人ノ蜂起 (墨西哥駐在室田外交事務官十月廿七日附報告) ○北海道移民ノ状況 ○布哇政府出稼人ノ検査ヲ蔽ニス (中外商業新聞) ○墨国特報 (十一月四日) 在墨国 孤劍生 ○會員根本正氏 会報 月次評議員会 寄附書目 明治廿九年十一月中会費領収者氏名 [合計 八拾円參拾錢]	77- 80
				総頁 80
45	30.02.08	殖民協会報告	英国保護馬來諸国年報摘要 在新嘉坡領事館報告 ○ペラ国 ○セラシゴール国 ○子グリ, セムビラン国 (「スンゲー」, 「ウジヨン」及「ゼレブ」ヲ含ム) ○パハン国 馬尼刺内地紀行 (ハノ下) 回々教徒及ヒ南方種族 墨国殖民契約基礎 (「墨国殖民雜誌」掲載) 編者識 雜録 ○墨国南東鉄道 ○移民並ニ殖民 ○英国ノ領土拡張 ○根本氏墨国巡回報告 会報 寄附書目 明治廿九年十二月中寄附金及会費領収者氏名 [合計 七拾六円六拾錢] 明治廿九年下半年期殖民協会収入計算書	1- 25     27- 49  51- 55 57- 68    69- 72   1- 2 総頁 74
46	30.03.09	殖民協会報告	墨国殖民契約基礎 (承前) 馬尼刺内地紀行 (九) 古代ノ通商史 雜録	1- 5 7- 23  25- 34

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○墨国へ本邦白米輸入ノ景況(廿九年十月一日在墨府総領事館報告)</li> <li>○布哇公使館ノ事</li> <li>○移民取扱人許可</li> <li>○津田静一氏ノ雄図</li> <li>○布哇ハマクワ珈琲前途</li> <li>○珈琲山紀行(承前)</li> </ul> <p>会報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>墨国移住組合法</li> <li>寄附書目</li> <li>新入会者〔計 八名〕</li> <li>明治卅年中会費領収者氏名</li> <li>殖民協会会員氏名一覧〔計 九百六十七人〕</li> <li>移転広告(京橋区八官町十八番地へ移転) 殖民協会</li> </ul>	35- 53
				1
				総頁 54
47	30.04.13	殖民協会報告	<p>馬尼刺紀行(十一)</p> <p>新バナマ運河 木下淑夫</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○墨国通信(其一)三十年一月八日付 在墨国府甘利造次</li> <li>墨国通信(其二)三十年一月廿八日付</li> <li>○濠洲移住希望</li> <li>○墨国ニ移民ヲナセヨ</li> <li>○晚香坡本邦出稼人</li> <li>○布哇ニ於ケル日本商品ノ好景氣</li> <li>○英領殖民地条約加入</li> <li>○墨西哥公使館(大隈外務大臣ノ設立理由)</li> <li>○各国労働者一年間ノ労働日数</li> <li>○二週間ノ長檢疫</li> <li>○神戸移民会社ノ許可</li> <li>○廿九年一月ヨリ六月ニ至ル墨西哥国官有未測量地ノ払下(廿九年十二月二日付在墨府総領事館報告)</li> <li>○日本ヨリメキシコノ觀察(『国民新聞』掲載記事) 長風生氏</li> <li>○布哇状況ニ付キ或ル信ズベキ商店主ノ談話</li> <li>○布哇政府日本労働者拒否事件</li> <li>○晚香坡港へ貨物ヲ発送スル者へノ注意(三十年一月二日付在晚香坡領事館報告)</li> <li>○墨国移住者愈出發ス</li> </ul> <p>会報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入会者〔計 十一名〕</li> <li>寄贈書目</li> <li>明治卅年二月中会費領収者氏名</li> </ul>	1- 14 15- 20 21- 54
				55- 58
				総頁 58

48	30.05.19	殖民協会報告	<p>墨西哥共和国チャパス州事情 (在墨室田公使ヨリ榎本會長へ寄贈サレタ小冊子) <span style="float: right;">編者識</span></p> <p>第一章 総論</p> <p>第一項 地理、風土</p> <p>第二項 交通ノ便</p> <p>第三項 住民</p> <p>第四項 財源</p> <p>第五項 産物</p> <p>第六項 土地</p> <p>第七項 諸税金</p> <p>第二章 各郡</p> <p>第一項 <u>ピチュカルコ</u> (Pichucalco) 郡</p> <p>第二項 <u>シモジヨヴェル</u> (Simojovel) 郡</p> <p>第三項 <u>パレンケ</u> (Palenke) 郡</p> <p>第四項 <u>チロン</u> (Chilon) 郡</p> <p>第五項 <u>コミタン</u> (Comitan) 郡</p> <p>第六項 <u>ラス、カサス</u> (Las Casas) 郡</p> <p>第七項 <u>チアパ</u> (Chiapa) 郡</p> <p>第八項 <u>メツカラバ</u> (Mezucalapa) 郡</p> <p>第九項 <u>タキストラ</u> (Tuztla) 郡</p> <p>第十項 <u>ラ、リベルタド</u> (La Libertad) 郡</p> <p>第十一项 <u>トナラ</u> (Tonala) 郡</p> <p>第十二項 <u>ソコヌスコ</u> (Soconusco) 郡</p> <p>○在馬來半島會員石原哲之助氏ヨリノ来信 <span style="float: right;">31- 33</span></p> <p>○墨国ニ於テ消費セル石炭ノ情况 (廿九年十二月廿二日付在墨府総領事館報告) <span style="float: right;">34- 37</span></p> <p>雜録 <span style="float: right;">39- 70</span></p> <p>○墨国麦稈真田ノ景況 (三十年一月三十日付 (在墨府総領事館報告))</p> <p>○墨国関稅追加 (三十年二月六日付在墨府総領事館報告)</p> <p>○布哇移民上陸拒絶事件</p> <p>○新聞紙ノ所説 (『時事新報』記事「移住殖民」, 『東京朝日』記事「布哇問題ト米国政府」, 『都』記事「布哇」)</p> <p>○米布哇合併ト布哇在住人ノ意向</p> <p>○濠洲ノ聯邦會議</p> <p>○米国ノ関稅改正ニ就キ</p> <p>○米布合併問題 (下院議題)</p> <p>○東洋汽船会社ノ事業計画</p> <p>○英領米国コロンビア州排斥事件</p> <p>○濠洲殖民地聯邦大会議</p>
----	----------	--------	---

			<p>○墨国通信(三十年二月六日付)在墨国府 甘利造次記 (其一) 墨国開化ノ進入路即港口ノ記 墨西哥湾 太平洋港湾 墨西哥ノ商業路 航海線</p> <p>○墨国通信(三十年二月十五日付)在墨国府甘利造次記 (其二) 中央亞米利加瓦提馬拉国博覧会ノ件 ○墨国渡航ノ草鹿砥農学士ヨリ評議員根本正氏へ來状 ○布哇殖民損害高</p> <p>会報</p> <p>寄附金及寄贈書目 新入会者〔計 七名〕 明治三十年三、四月中会費領収者氏名〔合計金百五拾壹円五拾錢也〕</p>	71- 74
				総頁 74
49	30.06.30	殖民協會報告	<p>榎本会長第五總會演説ノ趣意(去月廿九日於芝紅葉館) 野間政一氏演説ノ趣意(去月廿九日於芝紅葉館懇親会席上)</p> <p>墨国進歩ノ程度 墨国ノ農業 墨国ノ殖民事業</p> <p>クインスランド略史并ニ其財源</p> <p>墨国事情ノ概要(其一) 在墨府 甘利造次 墨国事情ノ概要(其二) 甘利造次</p> <p>墨国農業 園庭植物 墨国ノ工業 墨国ノ外国貿易</p> <p>墨国視察ノ記 根本 正</p> <p>商工業ノ發達 製造業 日墨兩國間貿易 日本ヨリ墨国へ輸出スル重要商品 墨国ニ於ケル貿易競争ノ現況 日本商品ヲ陳列縦覽セシムル方法 日本商人開店ノ心得</p> <p>雜録</p> <p>○万国商業上ノ關係(工業雜誌記録) ○遺利多キノ土地</p>	<p>1- 4 5- 12</p> <p>13- 23 25- 33</p> <p>35- 45</p> <p>47- 67</p>



			<p>○墨国通信(三十年五月二十二日付通信)在墨国榎本龍吉・甘利造次</p> <p>○布哇事件</p> <p>○海外渡航者</p> <p>○仕遊帰客談</p> <p>○濠洲ノ日本人ニ対スル畏怖心</p> <p>○将来の布哇(桑港クロニクルの評論)</p> <p>○伯刺西爾事情</p> <p>会報</p> <p>寄贈書目</p> <p>新入会者〔計 四名〕</p> <p>自明治三十年一月至同年六月上半期殖民協会収支計算書</p> <p>明治三十年六月中会費領収者氏名(合計七拾五円壹拾錢)</p>	93- 98
				総頁 98
51	30.08.30	殖民協会報告	<p>朝鮮半島殖民ノ必要 在朝鮮 恒屋盛服</p> <p>移住民ト衛生トノ関係</p> <p>我殖民ノ殖民スヘキ余地</p> <p>土地ニ対スル人民ノ権利</p> <p>田制及ヒ地稅</p> <p>農業上ノ利益</p> <p>結論</p> <p>保護特權ノ部</p> <p>制限ニ関スル部</p> <p>仏領印度支那拓殖誌(二)</p> <p>第三章 東京ノ山岳地方ノ平定 該地方ノ定住人民ニ対スル措置</p> <p>雜録</p> <p>○伯刺西爾移民ノ解散</p> <p>○日布談判成行(布哇外務披露)</p> <p>○人口的露西亜</p> <p>○国勢膨張ノ氣運(国民新聞)</p> <p>○露国の黒龍江殖民策</p> <p>○支那移民ノ禁止</p> <p>○在墨国草鹿砥農学士ヨリノ来状</p> <p>〔第一信〕</p> <p>〔第二信〕</p> <p>会報</p> <p>寄贈書目</p> <p>新入会者〔計 七名〕</p> <p>明治三十年七月中会費領収者氏名(合計五拾四円也)</p>	1- 28 29- 40 41- 55 57- 60
				総頁 60

52	30.09.30	殖民協会報告	<p>仏領印度支那拓殖誌 (三)                  加奈陀東南部商業視察報告 晩香波領事館報告                  ○総論 行政 各市                  ○季候風土及産物ノ概要                  ○人民及生計ノ概要 人口                  明治三十年五月中仁川商況報告 (三十年七月十日付仁川領事館報告)                  輸入重要品ノ商況                  輸出重要品ノ商況                  雑録                  ○墨国新任公使ト移民事業                  ○公使館及領事館                  ○布哇ノ近況                  ○東方ノ楽園 (毎日新聞)                  (墨其古ノ新移民地)                  ○太平洋海底電線ニ就テ                  ○南島蘇利地方ノ移民                  ○墨国ニ於ケル我移住民                  ○桑港ニ於ケル移住民                  ○南洋見聞 (国民新聞) 馬來半島ニテ 大平生                  ○ピューゼット海峡諸港ノ状況及本年上半季六ヶ月間                  港別輸出入高 (卅年七月廿四日在タコマ帝国領事館報告)                  ○墨府常設博覧会開設ノ計画 (卅年六月十七日付在墨府総領事館報告)                  会報                  寄贈書目                  新入会者〔計 四名〕                  明治三十年八月中会費領収者氏名 (合計七拾八円五拾七錢三厘)</p>	<p>1- 29                  31- 46                  47- 69                  71- 96                  97- 99</p>
総頁 99				
53	30.10.30	殖民協会報告	<p>墨西哥西北殖民会社 長沢 哲                  緒言                  覚書                  会社ノ作業                  業務ノ目論見                  墨国コロラド土地会社                  カリフォルニヤ湾頭コロラド河畔ニ於ケル土地四十万                  「エークル」(我十六万町)ノ記録                  墨斯古国大コロラド谷ニ於ケル『墨斯古及コロラド河                  土地会社』ノ土地ニ関スル記事                  織物原料                  綿, 大麻, 苧, ラミー</p>	<p>1- 24                  25- 36</p>



55	30.12.30	殖民協会報告	<p>墨国チャパス州エスキントラ殖民地事業経営復命書 草鹿砥寅二</p> <p>農業行政 一, 普通農場 二, 珈琲園     (イ) 種子購入     (ロ) 珈琲園地探検     (ハ) 珈琲教師備聘         労働者トノ契約</p> <p>労働者募集     (イ) 原籍     (ロ) 海外旅行券</p> <p>労働者 一, 航海 二, 旅行     (イ) サンベニト港ヨリタパチュラ市ニ至ル     (ロ) タパチュラ市滞在     (ハ) タパチュラ市ヨリ殖民地ニ至ル</p> <p>健康 一, エスキントラ地方ノ氣候     (イ) 氣候ハ不順ナラス     (ロ) 空氣湿润ナラス     (ハ) 寒暖ノ差少シ</p> <p>二, 飲用水 三, 家屋 四, 逃亡</p> <p>独立移住者 附丁酉会社</p> <p>印度支那拓殖誌 (五)</p> <p>雑録     ○西阿ニ関スル英仏間ノ葛藤     ○布哇甘蔗業者我移民ノ渡来ヲ望ム     ○哥薩克移住民ノ帰朝心     ○英国海峡殖民地ト金貨本位     ○日本移民会社業務代理許可     ○浦塩斯德近信     ○独逸ノ殖民地     ○馬來半島我労働者ノ移住ヲ希望ス     ○伯刺西爾國ノ近況 (読売新聞)     ○布哇事件ニ対スル日英兩國ノ關係     ○布哇耕主ノ年会 (三十年十一月十四日布哇新報)</p> <p>会報</p> <p>寄贈書目     明治三十年十一月中会費領収者氏名 (合計五拾六円三拾錢)</p>	<p>1- 131</p> <p>33- 44 45- 55</p> <p>57- 58</p>
----	----------	--------	--	--

			総頁 58
56	31.01.31	殖民協会報告	<p>台湾稻類試作成績(台湾総督府民政部殖産部報文中農務係員ノ試験成績ニ拠ル)</p> <p>二十八年晩期稻作試験</p> <p>二十九年早期稻作試験</p> <p>成績ノ概要</p> <p>印度支那拓殖誌(六)</p> <p>中央安南及安南政府ノ歳計予算</p> <p>東甬塞ノ財政改革</p> <p>交趾支那ノ財政上ノ位置</p> <p>ラヲノ歳計予算</p> <p>雑録</p> <p>○米国フヒラデルフヒヤ府概況(三十一年十一月八日付在費府名督領事館報告)</p> <p>○元山諸物価及労働者賃金表(三十年十二月三日付在元山領事館報告)</p> <p>○ブラジル移住民</p> <p>○濠洲ノ殖民排斥案ト日本ノ抗議</p> <p>○全国移民会社大会</p> <p>○布哇移民</p> <p>○日布事件纏ラントス</p> <p>○新嘉坡幣制改革問題ノ公報</p> <p>○新南ウエールズニ対スル日本ノ抗議</p> <p>○欧羅巴殖民ノ山東省</p> <p>○スマトラ島ノ新開港</p> <p>会報</p> <p>寄贈書目</p> <p>明治三十年十二月中会費領収者氏名(合計金八拾八円貳拾錢也)</p>
			1- 24
			25- 43
			45- 59
			61- 63
			総頁 63
57	31.02.28	殖民協会報告	<p>馬來半島ニ於ル厦門殖民</p> <p>支那新嘉坡關係ノ由来</p> <p>英政府ノ治蹟</p> <p>移民渡航ニ関スル方法</p> <p>クロングアイク及ヒ北方金山</p> <p>(左ハオギルヴィー氏ガ加奈陀政庁ニ差シ出シタル報告書ノ抜粋ナリ)</p> <p>印度支那拓殖誌(七)</p> <p>第五章 仏領印度支那ノ商業ノ状況, 該商業ヲ発達セシムル方法</p> <p>第一安南東京ノ商業ノ状況</p> <p>東京ノミノ輸出入品</p> <p>雑録</p>
			1- 6
			7- 13
			15- 25
			27- 37

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○馬來半島ジョホール国ムア地方ニ於テ移住ノ成功</li> <li>○濠洲通信 (十二月下旬在シドニー府漂浪生)</li> <li>○薩哈噠島の情勢</li> <li>○独逸殖民地ノ過去現在</li> <li>○英国海峡殖民地ノ繁栄</li> <li>○秘露移民事業ノ快挙</li> <li>○墨西哥移民地視察者ノ出発</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄附書目</p> <p>新入会者 (計 七名)</p> <p>明治三十一年一月中会費領収者氏名 (合計金六拾円五拾錢)</p>	39- 41
				総頁 41
58	31.03.30	殖民協会報告	<p>米国移民状況(タコマ駐在帝国一等領事齊藤 幹氏報告)</p> <p>南米<u>ブラジル</u>共和国ノ近信 (同地新聞「スタチスト」抜粋)</p> <p><u>ブラジル</u>財政</p> <p>(其一)</p> <p>(其二)</p> <p>(其三)</p> <p>印度支那拓殖誌 (八)</p> <p>東京ノ商品通過</p> <p>中央安南ノ輸出入品</p> <p>第六章 印度支那ニ於ケル土人及欧州人ノ農業ノ状況及其発達</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本邦労働者トコロングイク金鉞 (齊藤タコマ駐在領事報告)</li> <li>○墨西哥移住民ノ現況 (英国商務院月報)</li> <li>○全国移民会社大会</li> <li>○冒険家築山和一氏 (『東京朝日新聞』)</li> <li>○本邦移民事業ノ近況 (浜中八太郎ノ談話)</li> <li>○小池軍医静正ノ談話 (三十年二月九日時事新報)</li> </ul> <p>会報</p> <p>寄贈書目</p> <p>明治三十一年二月中会費領収者氏名 (合計金四拾六円八拾錢也)</p>	1- 6 7- 16    17- 33    35- 42  43- 45
				総頁 45
59	31.04.30	殖民協会報告	<p>暹羅事情</p> <p>バーレット公使送別</p> <p>暹羅貿易ニ関スルバーレット氏ノ報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○強盛ナル東邦</li> <li>○暹羅ノ商業及貿易</li> </ul>	1- 17

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○米人地方組合ノ必要</li> <li>○商權歐人ノ手中ニアリ</li> <li>○暹羅及ヒ商業通路</li> <li>○太平洋岸ノ便宜</li> <li>○暹羅及ヒ盤谷</li> <li>○盤谷ハ繁劇ナル港ナリ</li> <li>○商業上二三ノ欠点</li> <li>○施設ヲ要スヘキ事業</li> <li>○各国人民ノ区分</li> <li>○宣教師</li> <li>○暹羅ニ於ケル商業ノ方法</li> </ul>	
			<p>印度支那拓殖誌（九）</p> <p>農業ヲ振興スルノ方法</p> <p>第七章 千八百九十五年ノ初印度支那ニ於ケル土人及 欧州工業ノ状況并ニ之ヲ振興スル方法</p>	28- 49
			<p>護謨樹ニ就テ <span style="float: right;">戸谷松太郎</span></p> <p>黄金郷（其一） <span style="float: right;">会員竹川勝太郎編</span></p>	51- 56 57- 69
			<p>総論</p> <p>雑録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支那移住民ノ拒絶（中米尼加拉瓦共和国）</li> <li>○海峡殖民地總督上京</li> <li>○布哇出稼移住民ノ弊害</li> <li>○独国移住民ヲ膠州灣ニ送ル</li> <li>○渡米ノ差止</li> <li>○米市合併後ノ我移民</li> <li>○西伯利移民救助策</li> <li>○本邦殖民事業ニ関スル出品</li> <li>○海峡殖民地及暹羅金貨ノ問題</li> <li>○加奈太ニ於ル本邦移住民</li> </ul>	71- 75
			<p>会報</p> <p>寄附書目</p> <p>明治三十一年三月中会費領収氏名（合計金參拾九円壹拾錢也）</p>	
				総頁 79
60	31.06.04	殖民協会報告	<p>馬來半島殖民事情 <span style="float: right;">ジョホール国ニ於テ 石原哲之介</span></p> <p>○日本人移住地ノ狀況</p> <p>馬尼刺事情 <span style="float: right;">野田良治</span></p> <p>一、総論</p> <p>二、弗律賓群島ノ人種、言語、及人口統計</p> <p>三、群島ノ教育</p> <p>四、弗律賓群ノ交通</p> <p>（イ）外国トノ交通</p> <p>（ロ）群島内交通</p> <p>（ハ）呂宋島内交通</p>	1- 28 27- 78





			総頁 90
63	31.09.19	殖民協会報告	
		濠洲木曜島及ポートダーウイン港ニ於ケル本邦人ノ情况 (在タウンズヴィール領事館巡回報告)	1- 16
		木曜島 在留本邦人ノ実数及其他 在留本邦人ノ重ナル職業 在留本邦人ノ死亡数 本邦人ノ所有財産 採貝業ノ前途及欧州人ノ計画其他 本邦人ノ情况視察員木曜島へ出張ノ事 在留本邦人取締ニ関スル事 ポートダーウイン港	
		日本駐劄墨西哥国弁理公使ウオルハイム氏カ墨国移住組合席上	17- 22
		演説ノ趣意 (於本年七月六日墨国移住組合協議会席上)	
		黄金郷 (完) 会員 竹川藤太郎	23- 56
		金鉱彙報 カッパー河ノ銅鉱 終ニ戦ニ決セン 鉱地視察員ノ派遣 加奈陀ノ近道 三青年ノ勇進 クロンダイク遠征合資会社 ステワード河辺ニ於ケル一大発見 酒保ノ失敗 漂母ノ儂悴 遠征隊中ノ八婦人 ポートランド港ヨリドーソン市迄ノ航路 郵便線路用ノ犬 加奈陀政府ノ課税問題 鉱夫ニ供スル妻女ノ周旋 ドーソン市往復ノ郵便 鉱夫携帯品ノ関税 英国人クロンダイクニ着目ス ユーコン河上ノ浚泥機 国境問題 アラスカ分割ノ問題 アラスカ商業会社ノ準備 犬ノ需用 七百頭ノ羊群金山ニ向フ 婦人遠征隊 二十五年前ノ捜金者 博徒クロンダイクニ向フ	

			<p>捕鯨船ノ漁夫逃亡ス          馴鹿ノ発遣          山崩ニ罹リシ鉱夫          帰南セル冒険家ノ談話          ドーソン市ニ於ケル六月中旬好景気          クロンダイク金鉱ノ分析          女秀ノ冒険家          グロンダイクニ通スル電信線路          女丈夫クロンダイクニ学校ヲ起サントス          クロンダイク遠征者ニ向テ医学的注意          墨国チャパス州ソコムスコ郡日本殖民地監督小林直太郎          氏報告(明治三十一年五月十五日付)          雑録          ○報効義会東京支部長加藤洋氏ノ来信          ○在外帝国領事館設置年月日(通商局調査)          ○日布事件の一段落          会報          新入会者(計 四名)          寄附書目          明治三十一年上半期殖民協会収支計算書          明治三十一年七月会費領収者氏名(四拾七円拾銭)</p>	<p>57-61          63-70          71-74</p>
			総頁 74	
64	31.10.25	殖民協会報告	<p>米国太平洋北部海岸ニ於ケル我邦労働者ノ状態并米国水          夫賃銀ノ騰貴(三十一年五月十八日付タコマ領事館報告)          日本加奈陀間貿易品ノ将来并ニ汽船運賃(通商局)          加奈陀へ輸入ノ見込アル日本品          加奈陀諸港ヨリ日本マテノ貨物運賃          日本ヨリ加奈陀各地ニ至レル運賃          米国行移住民ニ関スル注意(三十一年七月廿五日付在桑          港領事館報告)          墨国珈琲貿易(三十一年八月六日付在墨西哥総領事館報          告)          印度支那拓殖誌(十)          雑録          ○ケロンダイク金鉱熱ノ経過          ○日本移住民と南洋          ○我南洋ノ新領土          ○米国渡航者注意          ○伯国移民ノ前途          ○濠洲移民上陸ニ関スル公報          ◇濠洲移民制限法公布          会報          新入会者(計 二名)          寄附書目</p>	<p>1- 4          5- 37          39- 40          41- 46          47- 61          63- 70          71- 74</p>

			明治三十一年八月中会費領収者氏名(三拾六円七拾錢) 特ニ会員諸君ニ告ク	総頁 74
65	31.12.17	殖民協会報告	<p>アラスカ東南部地方巡回報告(三十一年八月廿九日付在 タコマ領事館報告)</p> <p>沿革及総況</p> <p>ユーコン河産金地方ニ通スル線路</p> <p>ユーコン河地方ノ輸出入貨物課税ノコト</p> <p>郵便物集配ノコト</p> <p>ユーコン河畔ニ於ケル英米両国採鉱条規比較</p> <p>アラスカ内部ノ流通貨幣及商業慣習</p> <p>在留日本人ノ情況</p> <p>ユーコン地方出稼キ人ノ種類</p> <p>布哇諸島本邦人珈琲培養ノ景況(三十一年八月廿六日ホ ノル、総領事館報告)</p> <p>墨国船舶税法(三十一年九月廿四日在墨府総領事館報告)</p> <p>印度支那拓殖誌(十一)</p> <p>第八章 軍事上及ヒ行政上ノ諸工事○公益工事○工事 資金ノ調達○印度支那農工商ノ進歩及ヒ同地 方天然ノ富源開発利用ノ為ニ必要ノ諸工事</p> <p>雑録</p> <p>○米領アリゾナ狀況(三十一年十月十日付在桑港領事 館報告)</p> <p>○馬來半島ノ殖民事業</p> <p>○紐育横浜間新航路開拓ノ件(三十一年八月六日付在 紐育領事館報告)</p> <p>会報</p> <p>寄附書目</p> <p>明治三十一年九、十月中会費領収者氏名(合計百拾六 円七拾錢也)</p>	<p>1- 39</p> <p>41- 47</p> <p>49- 56</p> <p>67- 76</p> <p>77- 79</p> <p>総頁 83</p>
66	32.02.04	殖民協会報告	<p>桑港付近在留邦人ノ狀況(卅年十一月十五日付在桑港領 事館報告)</p> <p>第一 在留人員並職業區別</p> <p>第二 農業</p> <p>第三 商工業</p> <p>第四 漁業、鉱業及鐵道業</p> <p>第五 其他諸業</p> <p>第六 労働者ノ風俗一斑</p> <p>自廿九年七月至三十年六月一年間墨国商況(一)(卅年十 二月廿九日付在墨府総領事館報告)</p> <p>総論</p> <p>輸出貿易</p>	<p>1- 22</p> <p>23- 56</p>



		<p>○報効義会ノ現況                  ○クインスランド移住民ノ多忙                  ○既往八十二年間ノ移住民</p> <p>会報</p> <p>第六回殖民協会總會記事                  入退会者 (入会者90名, 退会者37名, 死亡 5名, 現在 994名)                  自明治三十年一月同三十年十二月殖民協会収支計算書                  新入会者 (計 八名)                  寄附書目                  明治三十二年一月中会費領収者氏名 (合計四拾七円八拾九錢也)</p>	57- 66
			総頁 66
68	32.06.12	<p>殖民協会報告</p> <p>墨国ゲレロー州サンマルコス農場ノ概況                  英領晚香坡島石炭坑本邦労働者ノ状況 (三十一年十一月二十日晩香波領事館報告)                  一, 日清労働者坑内就業禁止ニ関スル事                  二, 労働者賃金ノ事                  三, 労働者生活ノ模様</p> <p>自廿九年七月至卅年六月一年間墨国商況 (三)</p> <p>鉱物質貨物                  織物類                  製薬類                  飲料品類                  紙類                  機械器具及汽関類                  車両類                  武器及火薬類                  其他雜品</p> <p>〔完〕</p> <p>雜録</p> <p>○米国三十年七月ヨリ三十一年六月ニ至ルーケ年間ニ外国移住民ノ概況 (三十二年二月十四日付在タコマ領事館報告)                  ○布哇オーラア新耕地 (設計書発表セラル, 資本金五百万弗, 二万エーカー)                  ○移民業務代理許可                  ○米国ト布哇契約移民                  ○仏国政府ノ女子海外移住奨励                  ○各国駐在帝国領事                  ○内外貨幣度量衡比較表</p> <p>会報</p> <p>本会評議員会                  新入会者 (計 九名)</p>	<p>1- 5                  7- 10</p> <p>11- 53</p> <p>55- 80</p> <p>81- 84</p>

		寄附書目		総頁 84
69	32.08.16	殖民	時報	
			殖民協会設立趣意書	1- 4
			殖民協会拡張ノ趣旨 〔論説〕	1- 2
			殖民ノ急務 栗原亮一	3- 6
			人類増減ノ原則 巽来治郎	7- 8
			其一 印度古代ノ学説ノ上	
			馬來半島殖民事業之大要 川島烈之介	9- 27
			南阿ノ実相 鎌原幸治	28- 32
			〔講談〕	
			北清事情 広瀬源三郎	33- 47
			割込殖民 峰岸繁太郎	48- 51
			〔通信〕	
			墨国通信(五月廿四日墨府発) 古川 兵一	52- 59
			〔史料〕	
			ボルネオ島侵略実歴譚	59- 63
			英領北ボルネオ拓殖会社社長プライヤー氏談・沢木生訳	
			印度支那拓殖誌(承前)(殖民協会報告第六十六号接続)	63- 71
			〔詞壇〕	72- 73
			〔殖民談片〕	74- 78
			○肝付將軍ヲ訪フ 天民 生	
			○婦人ノ海外渡航ニ就テ杉村通商局長ノ談話	
			〔詔勅〕	79
			〔雜報〕	80- 92
			○詔勅	
			○ハインリッヒ親王殿下	
			○露国皇太弟殿下ノ薨去	
			○万国平和會議	
			○渡韓取締	
			○日本人排斥法案ノ否認(六月七日倫敦発)	
			○否認ノ通牒	
			○サモア王ノ廃黜(六月廿三日倫敦発)	
			○在墨西哥ノ本邦移民	
			○秘露移民歓迎(佐倉丸の帰着)	
			○英国ノ威海衛守備兵	
			○独逸コロライン群島ヲ買収ス	
			○又	
			○露国ノ中央亞細亞探検隊	
			○「ペルシカ」号ノ新島発見	
			○世界各国殖民地ノ比較	
			○本邦居留外国人	
			○和蘭殖民地ノ日本人待遇法改正	
			○木曜島日本人拒絶ノ情報	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○布哇移民の契約済</li> <li>○日本人排斥案否認の通牒</li> <li>○日本移民制限</li> <li>○新嘉坡ノ支那移民拒絶</li> <li>○全国移民会社同盟会の臨時總會</li> <li>○英国政府ノナイジヤー買収</li> <li>○東洋万国博覧会</li> <li>○取締</li> <li>○小樽移住民</li> <li>○本邦移民会社ノ現状</li> <li>○桑港ノ本邦移民数</li> <li>○桑港ニ於ケル怪聞</li> <li>○布哇ニ於ケル伊太利労働者ノ輸入</li> <li>○秘露移民ノ新社会</li> <li>○「モルモン」宗徒加奈太ニ移住ス</li> <li>○アプルツナ公ノ北極探検</li> <li>○全世界ニ於ケル砂糖ノ産出額</li> <li>○布哇ノ本邦移民ニ就テ</li> <li>〔本会紀事〕</li> <li>新入会者〔計 三十二名〕</li> <li>寄附書目</li> </ul>	93- 97
				総頁 101
70	32.09.16	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 〔論説〕 海外ニ於ケル日本殖民政策 島田三郎君口述・清水秀次郎速記 人類増減ノ原則 (接前)                      巽 来次郎 南阿ノ実相 (承前)                              鎌原 幸治 〔講談〕 割込殖民 (承前)                                  峰岸繁太郎 殖民ノ急要    十文字信介 〔通信〕 墨国通信 (六月廿日發)                      在墨府 古川 兵一 墨国地勢ノ高低ト農産物トノ關係 ○二十年前ト今日ノ墨国 牛荘短信 (八月廿日發)                      陸 鯤 生 〔史料〕 ボルネオ侵略実歴譚 英領北ボルネオ拓殖会社社長プライヤー氏談・沢木生 訳 印度支那拓殖誌 (承前) 〔紀行〕 台湾蕃地探検紀行                              曾根 俊虎 〔公文〕	1- 4    1- 7 8- 11 12- 17  18- 36 36- 43  44- 50  50- 52  52- 57  57- 70  70- 82

日本労働移住者ニ関スル日濠洲間ノ公文	在木曜島 佐藤虎次郎	83- 85
〔詞壇〕		86- 87
〔殖民談片〕		
大隈伯ヲ訪フ	天 民 生	87- 89
〔新刊批評〕		
漢城月報第一号 韓国京城発刊		89- 90
最近探検南洋事情 篠宮龍太郎探検・大沢書店発行		
〔雑報〕		90-106
○南亜ノ覆牒		
○南亜米利加ト日本		
○外国人傭人		
○米国シヤトル港移民検査官		
○各国商船ノ頓数		
○米国ニ於ケル鉄道会社ノ大連合		
○布哇出稼人ノ出発		
○英領加奈太コロンビア州議會ニ於テ日本人排斥案ニ関シ加奈太首相ノ為シタル演説		
○桑港上陸移民数		
○同上陸拒絶数		
○米国ノ殖民省新設		
○新南ウェルスノ好情		
○英国ノ殖民地公債		
○伯国移民会社ノ照会		
○厦門運輸状況		
○清国政府ノ本邦郵便		
○日本移民ヲシテ墨国ニ綿花ヲ栽培セシムルジョーンズ氏ノ意見		95- 97
○カロライン買取ト独逸民間ノ輿論		
○濠洲ノ新国旗		
○日本移民会社ノ移民渡航		
○新開港場		
○木曜島ノ日本人		
○伊仏ノ新内閣		
○欧米殖民地制度取調		
○世界各国時間ノ差異		
○米国移住民上陸ニ関シ陸奥領事ノ報告		
○外国貿易		
○布哇移民ノ契約許可		
○在外邦人最近調査		
○独逸国民移住ノ統計		
○世界各国煙草収穫額		
○白露ノ本邦移民		
〔本会紀事〕		107-110

			新入会者〔計 二六名〕 寄附書目	総頁 114
71	32.10.28	殖民 時報	〔論説〕 世界ノ殖民事業ト帝国 菅 菊太郎 第一節 世界殖民事業ノ大勢 第二節 殖民政策ト帝国ノ人口 第三節 今日ノ日本ハ殖民ニ好適シ又其好運ニ際会セリ 第四節 日本人現今ノ殖民政策及海外移住 人類増減ノ原則 (接前) 巽 来治郎 南阿ノ実相 (承前) 鎌原 幸治 〔講談〕 韓国ニ於ケル日本人 恒屋 盛服 殖民ト貿易ノ関係 堀越善重郎 〔史料〕 ボルネオ島侵略実歴譚 (承前) 英領北ボルネオ拓殖会社長ブライヤー氏談・沢木 生 訳 〔紀行〕 台湾蕃地探検紀行 (承前) 曾根 俊虎 〔公文〕 日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文 在木曜島 佐藤虎次郎 〔伝記〕 南阿共和国大統領クルーゲル略伝 鎌原 幸治 〔詞壇〕 〔雑報〕 ○大谷評議員渡米 ○太平洋移民会社設立 ○布哇移民出発 ○仏国移住民 ○米国ビニューゼット海峡並ラレコン州ポートランドノ本 邦移民数 ○弗律賓群島現行移住民取扱細則 ○第七回神刀流剣舞大会 〔本会紀事〕 新入会者〔計 二十一名〕 寄附書目	1- 20 20- 23 23- 31 32- 46 46- 52 53- 59 59- 70 71- 73 74- 75 75- 77 77- 83 84- 86
				総頁 86
72	32.11.16	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 〔論説〕 遠キ者ハ果シテ遠ク近キ者ハ果シテ近キ乎 巽 来治郎	1- 4 1- 4

殖民ノ意義	鎌原 幸治	4- 5
人類増減ノ原則(接前) 〔講談〕	巽 来治郎	5- 7
墨国覆本殖民地ノ実況 〔通信〕	大関昌之佐	8- 19
西比利亜短信(十月六日発信) 在ブラゴウエンチユンスク府	菅 菊太郎	20- 21
墨国通信(十月一日発信) 〔史料〕	在墨国 古川 兵一	21- 26
支倉六右衛門ニ関スル考証		26- 40
中浜万治郎漂流始末 〔紀行〕	故吉田正替聞書	40- 50
台湾蕃地探検紀行(承前) 〔公文〕	曾根 俊虎	50- 63
日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文(承前) 〔詞壇〕	在木曜島 佐藤虎次郎	64- 66
〔外事短評〕		67
○広州湾		67- 68
○渺タルサモア		
○米国モ亦		
○人ヲ植ヘント欲セハ		
○英人食スルトコロ		
○南米合衆国将サニ起ラントス		
○俗信マッキン		
○史家マゾン		
○天下豈ニ別アランヤ大小ノ分アルノミ 〔雑報〕		68- 83
●殖民地戒嚴令		
●米国トマニラ		
●斯南威爾斯移民制限法施行規則		
●サモア島ノ分割		
●オチス島ノ不人望		
●布哇ノ出發期		
●北海道ニ於ケル本年上半期間ノ移住民数		
●世界人口ノ割合		
●欧羅巴人が食物ニ費ス費用		
●昨年中蘇土運河ヲ通行シタル船舶		
●海外電報料金表 〔本会紀事〕		83- 84
新入会者〔計 十名〕 寄附書目		
		総頁 84

73	32.12.16	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 (論説) 第十九世紀ヲ餞ス 異 李軒 1- 3 ハアバアート、スヘンサー翁ノトランスヴハールニ対スル意見 鎌原 幸治 3- 5 人類増減ノ原則 (接前) 異来 治郎 5- 7 (講談) 殖民ノ本国ニ及ホス利益 鎌原 幸治 8- 13 (通信) 墨国通信 (十一月一日墨府発) 在墨国 古川 兵一 14- 19 ○墨国昨今ノ労働問題 (史料) 支倉六衛門ニ関スル考証 (承前) 金城秘船補綴 (仙台黄門遣羅馬使記事) 大槻文学博士 19- 38 中浜万次郎漂流始末 (承前) 故吉田正督聞書 38- 44 (紀行) 台湾蕃地紀行 曾根 俊虎 44- 50 (徼) 51- 52 独立軍大統領アギナルドノ真非島民ニ告クルノ文(英文) (詞壇) 52- 53 (外事短評) 54- 55 (雜報) 56- 82 ●モッター河畔ノ大戦 ●サモア問題 ●米国ノ太平洋海底電線 ●布哇ノ移民 ●世界穀類ノ産出額 (マンホール統計) ●英国ノ南亞出征兵員 ●木曜島日本人会ト飯島領事 ●蘭領瓜哇殖民制度 (三十二年二月八日付和蘭帝国公使館報告) (本会紀事) 82- 83 新入会者 (計 十六名) 寄附書目	1- 4 1- 3 3- 5 5- 7 8- 13 14- 19 19- 38 38- 44 44- 50 51- 52 52- 53 54- 55 56- 82 82- 83 総頁 84
74	33.01.16	殖民 時報	協会設立趣意書 (論説) 殖民事業奨励ノ必要 江原 素六 1- 3 世界最終ノ分割 鎌原 幸治 3- 5 朝鮮殖民問題ノ性質 恒屋 盛服 5- 7 浦塩斯徳ノ日本商人 松原 栄 7- 13 人類増減ノ原則 (接前) 異来 治郎 13- 15	1- 4 1- 3 3- 5 5- 7 7- 13 13- 15

〔通信〕		
濠洲通信(十二月八日発信)		
	木曜島日本人会々頭佐藤虎次郎	16- 18
秘露通信(十二月十七日)	在里麻府 放浪生	18- 21
露京通信(十一月廿四日)	在聖塔堡 半風生	21- 22
維那通信(十一月廿一日)	在ウインナ 帝夢子	22- 23
巴西通信(十一月三日発信)		23- 24
	在リラデジャヤイロ 古鬮體	
〔伝記〕		
○真非独立軍主師アギナルド小伝(英文)		24- 25
〔史料〕		
ボルネオ島侵略実歴譚(第七一号接続)		25- 31
〔紀行〕		
○波斯紀行	福島 安正	31- 43
台湾蕃地探検紀行(承前)	曾根 俊虎	43- 54
〔公文〕		
日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文(承前)		55- 57
	在木曜島 佐藤虎次郎	
〔詞壇〕		
〔外事短評〕		
◎海国ニ処スルモノハ		58- 59
◎由来俠骨		59- 61
◎広州湾ヲ如何セントス		
◎渺タルライブ博士何人ゾ		
◎露ガ東露ニ漁業規則ヲ発布スルヤ		
◎風伯		
◎黄色人種中出稼人ノ大多数ハ		
◎烟ナキハ燃料ナクレハナリ		
◎好意カ		
◎列強ノ支那ニ有スル利益ヲ見ヨ		
〔雑報〕		
●レジースミスノ近状		61- 63
●英軍本隊ノ動静		
●菲島ノ現況		
●清国ノ開放		
●横浜ヨリノ布哇移民		
●布哇移民ノ初渡航		
●米国大統領ノ教書		
●最近世界生糸生産額		
●アイヌノ正月		
●中央亜米利加サルパドル共和国視察復命書		
	(三十二年八月附在墨国帝国公使館報告)	
〔本会紀事〕		
評議員会		79- 81

			新入会者 (計 二七名) 寄附書目	総頁 85
75	33.02.21	殖民 時報	〔口絵〕 北極探検家ウラルター, ウエルマン肖像 殖民協会設立趣意書 本会第七次総会ニ於ケル子爵榎本会長ノ演説 〔論説〕 北極探検家ウラルター, <u>ウエルマン</u> ニ就テ 鎌原幸治 東露ニ於ケル朝鮮人殖民地ノ研究 人類増減ノ原則 (接前) 東部西伯利亚勸業博覧会ヲ視ル 南阿ノ実相 (第七十一号接続) 鎌原 幸治 〔講談〕 在外日本人ノ状態 近衛 公爵 〔通信〕 真菲通信 (一月十七日発信) 在 <u>マニラ</u> 凶南生 倫敦通信 (十二月十六日發) <u>ペット</u> , <u>フロード</u> 街ニ於テ 蟹 江 生 南米 <u>アルゼンチナ</u> 通信 (十二月二十八日発信) 在 <u>ブエノス</u> , <u>アイレス</u> 半 悟 禪 <u>モンテ子グロ</u> 通信 (十一月二十九日) 在茂国 二 兎 生 〔伝記〕 南米ボリビア新任大統領 <u>ゼ子ラルバンド</u> 小伝 〔紀行〕 ●波斯紀行 (承前) 福島 安正 台湾蕃地探検紀行 (承前) 曾根 俊虎 〔公文〕 日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文 (承前) 在木曜島 佐藤虎次郎 〔詞壇〕 〔外事短評〕 ◎ <u>アギナルド</u> 未ダ死セズ ◎ <u>独帝</u> ノ銃獵 ◎ <u>エジプト</u> ノ奇俗 ◎ <u>ギエバ</u> ノ飢饉 ◎ <u>英国</u> ノ亜細亞横貫鉄道 ◎ <u>ナイル</u> 河岸ノ蟻群 ◎ <u>妙齡</u> ノ佳人将ニ <u>仏国</u> 大博覧会ヲ破壊セントス ◎在米愛蘭人ノ義拳 ◎南米智利国民 ◎七歳ノ溥儀 ◎英社皆勝	1- 4 1 2- 6 6- 15 15- 17 17- 24 24- 29 30- 42 43- 44 44- 45 45- 49 49- 50 50 51- 58 58- 65 66- 67 68 68- 71



ボルネオ島侵略実歴譚 (前々号接続)		49- 53
北ボルネオ拓殖会社長 プライヤー氏談・沢木 生訳 〔紀行〕		
●波斯紀行 (承前)	福島 安正	54- 64
○打電		
○騎馬遊郊		
○市中警戒		
○世事暗黒		
○突然有報		
○徳黒蘭返電		
○旅行準備		
○英国駐在官之好意		
○不西爾発程		
○急病		
○波拉順		
○電信官舎		
○盲目大尉		
○歩兵十騎		
○波斯地獄		
○眩暈将倒		
○哥那爾達克他		
○人氣嶮悪		
○水辺露宿		
○喀塞倫市		
○小娘嶺		
○老婦嶺		
○達斯達爾然		
台湾蕃地探検紀行 (承前)	曾根 俊虎	65- 74
〔公文〕		
日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文 (承前)		75- 77
〔詞壇〕		78
〔外事短評〕		78- 79
○港湾ナキ交戦国		
○貸金政策		
○ラ、フハアエツトノ記念碑		
○我両院ハ大学者ノ淵叢ナリ		
○ピットノ碑銘		
○フランクリンノ先見		
〔雑報〕		79- 81
●布哇施政法案ノ通過		
●清韓渡航者旅券下付ニ就キ訓令		
●米国政府ノ外国船員取締令発布		
●布哇焼却損害要償高		
●移民渡航		

			<ul style="list-style-type: none"> <li>●桑港ニ上陸セル移民数</li> <li>●大谷評議員ノ帰朝</li> <li>●南阿共和国(トランスウバル)最近産出ノ黄金</li> <li>●米国ノ過去十年間ニ於ケル輸出入額</li> </ul> [本会紀事] 新入会者〔計 九名〕 寄贈書目	81- 82
				総頁 86
77	33.04.21	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 [論説] 東露移民ノ奨励ニ就テ 松原 栄 1- 4 肝付將軍ニ望ム 於東京農事雑報社 十文字信介 4- 7 東露ニ於ケル朝鮮人殖民地ノ研究(承前) 菅 菊太郎 7- 22 第三節 朝鮮人殖民地ノ地理及經濟事情 人類増減ノ原則(接前) 巽 来治郎 23- 24 印度支那古代学説ノ上 [通信] 南米アルゼンチナ通信(二月二十五日発信) 在ブエノス、アイレス 半 悟 禅 25- 28 [報告] 中米亜米利加ニカラグア共和国視察報告(通商彙纂抄録) 地形 政治 財政 交通 貿易 [伝記] 南米ボリビア共和国新任副統領ヴェラスコ小伝(英文) 35- 36 [史料] ボルネオ島侵略実歴譚(承前) 36- 42 北ボルネオ拓殖会社社長 プライヤー氏談・沢木 生訳 万延年間幕使航米日録(其一) 42- 46 [紀行] ◎波斯紀行(承前) 福島 安正 46- 62 達斯達爾然発程 ○西拉斯府 ○電信監督 ○総督 ○兵備 ○慘刑 ○前総督 ○阿片下落 ○軍艦笑柄 ○辞護衛兵	

				<p>○不西爾西拉斯間各駅の距離</p> <p>○西拉斯発程</p> <p>○西拉斯伊巴漢間概説</p> <p>〔海事〕</p> <p>北極探検 (ノーチカル, <u>マガジン抄訳</u>) 肝付 兼行 62- 72</p> <p>八幡船 (明末の倭寇) 足立 栗園 72- 78</p> <p>〔公文〕</p> <p>日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文 (承前) 79- 81</p> <p style="text-align: right;">在木曜島 佐藤虎次郎</p> <p>〔外事短評〕 82- 83</p> <p>◎「ポーア」の俠勇</p> <p>◎印度の飢饉</p> <p>◎ロカ統領の失策</p> <p>◎布哇施政法案の通過</p> <p>◎十万両の首代</p> <p>◎ヲルニー乎デュウエー乎</p> <p>◎馬浦の要求</p> <p>〔雑報〕 83- 87</p> <p>●布哇施政法案の通過</p> <p>●海外移民取締の訓示</p> <p>●本邦移民会社の現状</p> <p>●山口県の寄贈</p> <p>●東洋移民会社の成效</p> <p>●内外貨幣度量衡比較</p> <p>〔本会記事〕 89- 88</p> <p>新入会者〔計 二二名〕</p> <p>寄贈書目</p>	総頁 92
78	33.05.21	殖民 時報	<p>〔論説〕</p> <p>殖民放言 鎌原 幸治 1- 20</p> <p>対花殖民感 巽 李 軒 20- 22</p> <p>東露ニ於ケル朝鮮人殖民地ノ研究 菅 菊太郎 22- 28</p> <p>青木外相ノ訓示 鎌原 幸治 28- 29</p> <p>〔通信〕 30- 32</p> <p>露京通信 (三月廿日発信) 在聖都堡 帝 夢 子</p> <p>浦港通信 (四月廿五日発信) 金華山 樵</p> <p>〔報告〕</p> <p>中央亜米利加ニカラグァ共和国視察報告 (承前) 32- 41</p> <p>農業</p> <p>林業</p> <p>鉱業</p> <p>工業</p> <p>殖民</p> <p>ニカラグァ運河</p>		

			(伝記) 英国前代議士ミツケール, <u>ダウィツト</u> の奇俠 鎌原 天民 41- 42 (史料) ボルネオ島侵略実歴譚 (承前) 北ボルネオ拓殖会社長 プライヤー氏談・沢木 生詠 42- 48 万延年間幕使航米日録 (其二) 48- 52 (海事欄) 八幡船 (明末の倭寇) 足立 栗園 53- 57 第二 朝鮮の倭寇 [外事短評] 57- 59 ◎「ノーヴオー, ウレミヤ」の記事 ◎新嘉坡総督の好謔 ◎首代騰貴 ◎南米の三国同盟 ◎小アギナルド死す ◎仏骨の渡来 ◎真韭総督の更迭 [雑報] 59- 66 ◎東宮殿下の御結婚 ●移民保護法施行細則改定 ●移民許可の制限に付青木外務大臣の訓示 ●布哇施政法の実施期 ●清韓及び東部西比利亞渡航者の便利 ●白露移民の状況 ●布哇要償裁判所の成行 ●仏領マダガスカル日本人の移住を望む ●独逸の移住民 ●米国移民上陸拒否 ●桑港労働協会の建議 ●東部西比利亞の殖民 (黒龍江移住民の増加) ●憲政本党の殖民政策討論会 ●本年一月以降晚香坡上陸本邦移民数 ●桑港上陸移民数 ●清韓各地一月末在留本邦人口 [本会記事] 66 新入会者 (計 一四名) 寄贈書目	総頁 70
79	33.06.21	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 [論説] 続殖民放言 鎌原 幸治 1- 8 再タビ東露移民ノ奨励ニ就テ 松原 栄 8- 20 其一 新定期航路ヲ開キ東露移民ヲ奨励スベシ	

其二 金融機関ヲ設ケ東露移民ヲ奨励スベシ		
其三 試売組合ヲ設ケ東露移民ヲ奨励スベシ		
布哇施政法実施ノ結果	鎌原 幸治	20- 21
日本労働移民排斥ノ真因	鎌原 幸治	21- 25
[通信]		
室田公使の来簡		26- 28
ニウ、ソウスウエルス来簡 (四月二十九日発信)		
	在シドニイ 井上 友志	
[報告]		
中央亜米利加 <u>コスタリカ</u> 国視察報告 (在墨府帝国公使館報告)		30- 39
地形 全図 (略之)		
政治 外国人及清国人に関する規定		
財政 幣制、造幣局及流通貨幣		
交通 電信電話、鉄道、航路		
貿易 銀行、海関税		
農業 至要物産		
鉱業		
工業 職工賃銀		
[史料]		
ボルネオ島侵略実歴譚 (承前)		
北ボルネオ拓殖会社社長 プライヤー氏談・沢木 生訳		39- 42
万延年間幕使航米日録 (其三)		42- 46
[紀行]		
波斯紀行 (第七十七号接続)		46- 50
○伊斯巴漢		
○回教学院		
○巴々		
○総督		
○震塔		
[海事]		
八幡船 (明末の倭寇)	足立 栗園	50- 54
[公文]		
日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文 (第七十七号接続)		55- 56
[外事短評]		57- 58
◎少年刺客		
◎南阿の説客		
◎クルーゲル気焰		
◎スピランコップの報告		
◎米土国交破る		
◎団匪の通電		
◎加奈陀首相の明眼		
◎極東殖民地物価の騰貴		
[雑報]		58- 60

			<ul style="list-style-type: none"> <li>●加奈太総理大臣の演説</li> <li>●団匪</li> <li>●「モグリ」取扱者の無責任</li> <li>●渡米移民</li> <li>●森岡真氏対吉沢山口県知事及び中央新聞社事件</li> <li>●米国に於ける支那労働者の秘密上陸</li> <li>●清韓各地三月末在留本邦人口</li> </ul> <p>〔本会記事〕 新入会者〔計 二十三名〕</p>	60
				総頁 64
80	不 明	殖民 時報	<p>〔論説〕</p> <p>マダガスカル島ニ於ケル労働ノ状況 仏国マダガスカル総督府殖民事務官ギヨン</p> <p>第一 マダガスカル島略誌 第二 人口 第三 殖民</p> <p>亜細亜ノ鉄道 鎌原 幸治 満洲ニ於ケル露国ノ殖民 松島 宗衛 東露ニ於ケル朝鮮人殖民地ノ研究(第七十八号接続) 第五節 朝鮮村ノ寺院及学校 人類増減ノ原理(第七十七号接続) 巽来 治郎</p> <p>〔通信〕 伯刺爾兒來簡の一節 〔報告〕 中央亜米利加オンドウラス国視察報告 在墨府帝国公使館報告</p> <p>〔紀行〕 ●波斯紀行(承前) 福島 安正 六ヶ月間世界一週西伯利亞紀行 松原 栄</p> <p>〔海事〕 八幡船(明末倭寇) 足立 栗園 露国の海業 鎌原 幸治</p> <p>〔公文〕 日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文(承前) 在木曜島 佐藤虎次郎</p> <p>〔外事短評〕 ◎分割手保全乎 ◎オレンジ自由国亡ぶ ◎プレトリア亦た陥る ◎清帝の生命保険 ◎露国政府の探検員保護 ◎蒼蠅と婦人 ◎子ルチンスクの砂金 ◎一点紅</p>	<p>1- 8</p> <p>8- 9</p> <p>9- 13</p> <p>13- 15</p> <p>15- 16</p> <p>17- 20</p> <p>20- 29</p> <p>30- 36</p> <p>36- 39</p> <p>39- 42</p> <p>42- 45</p> <p>49- 50</p>

			〔本会記事〕 新入会者〔計 三名〕	50
				総頁 54
81	33.09.10	殖民 時報	〔論説〕 北米合衆国大統領候補者ブライアン氏ノ宣言書 鎌原 幸治 南極探検 鎌原 幸治 東部西比利亜ニ於ケル露民ノ移住 (米国「コムマルシヤル、エゼント」ゲリナー氏ノ所報ニ拠ル) 鎌原 幸治 英領殖民地ニ於ケル労働者ノ需用 大虫 居士 北清事変ニ対スル康有為ノ意見 天 民 生 〔報告〕 南米コロンビヤ共和国視察報告 (在墨国帝国総領事館報告) 沿革 地形 政治 財政 交通 貿易 関税率 農業 林業 鉱業 製造業 漁業 〔伝記〕 露国前外相ムラヴィエフ伯 鎌原 幸治 ◎ムラヴィエフ家 ◎ムラヴィエフ伯の経歴 ◎ムラヴィエフ伯の性行 ◎ムラヴィエフ伯の政策 ◎ムラヴィエフ伯と宮廷の關係 ◎ムラヴィエフ伯とウイテ蔵相との關係 ◎ムラヴィエフ伯と新聞記者 ◎ムラヴィエフ伯と英国 ◎ムラヴィエフ伯の北清事変に対する意見 〔史料〕 ボルネオ島侵略実歴譚 (第七十九号接統) 北ボルネオ拓殖会社長ブライヤー氏談・沢木 生訳 第九回 万延年間幕使航米日録 (其四) 〔紀行〕 朝鮮紀行 国島 光方	1- 4 4- 10 10- 19 19- 21 21- 23 24- 44 44- 48 48- 53 53- 58 58- 69

			〔海事〕 八幡船(明末の倭寇) 足立 栗園 70- 73 瑞典の海業 大虫 居士 73- 75 〔公文〕 日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文(承前) 76- 78 在木曜島 佐藤虎次郎 〔外事短評〕 79 〔本会記事〕 79- 80 寄贈書目 総頁 84
82	33.10.10	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 〔論説〕 英国ニ於ケル殖民協会及ビ其事業 鎌原 幸治 1- 15 西伯利及ビ滿洲ニ於ケル日本人 松原 宗衛 15- 19 猶太国ノ再造 鎌原 幸治 19- 20 英国政府ノ移民船舶ニ関スル規定 鎌原 幸治 21- 25 〔報告〕 南米コロンビヤ共和国視察報告(承前) 26- 38 〔史料〕 ボルネオ島侵略実歴譚(第七十九号接続) 38- 43 北ボルネオ拓殖会社長 プライヤー氏談・沢木 生訳 〔紀行〕 朝鮮紀行(承前) 国島 光方 43- 48 六箇月間世界周遊記(第八十号接続) 松原 栄 48- 55 〔海事〕 独逸の海業 鎌原 幸治 55- 57 〔公文〕 日本労働移住者ニ関スル日濠間ノ公文(完) 58- 60 在木曜島 佐藤虎次郎 〔外事短評〕 ◎随声逐影 61 ◎欧州の富 ◎シド子一の殷盛 ◎独逸の海外放資額 ◎黄禍白人黄色 ◎普王の雄図 ◎伊国の蛮刑 〔本会記事〕 61- 62 新入会者(計 四名) 寄贈書目 総頁 66
83	33.11.10	殖民 時報	〔論説〕 秘露ボリビア及ヒ智利ニ関聯スルアリカ及ヒタクナ問題 1- 5

			鎌原 幸治	
		露清関係	菅菊 太郎	6- 11
		第四回猶太種族万国大会	鎌原 幸治	11- 15
		西伯利及び滿洲ニ於ケル日本人	松島 宗衛	16- 21
		三十六億円	天民 生	21- 22
		濠洲木曜島通信 (九月十四日発)	野口由三郎	22- 24
		[報告]		
		露領黒龍江視察報告 (在浦塩斯德貿易事務館報告)		25- 48
		第一 黒龍江地方在本邦人の情况		
		一、人口		
		二、職業		
		第二 黒龍江沿道の交通		
		第三 黒龍江沿道の商業		
		[史料]		
		英領殖民地錫蘭島歴史地理	鎌原 幸治	48- 50
		万延年間幕使航米日録 (其五)		50- 55
		[海事]		
		八幡船 (明末の倭寇)	足立 栗園	55- 58
		[紀行]		
		朝鮮紀行 (承前)	国島 光方	59- 62
		六箇月間世界周遊記 (承前)	松原 栄	62- 69
		[公文]		
		南米ブラジル国移民条例		69- 73
		[本会記事]		
		移住殖民奨励保護ニ関スル建議書		73- 74
		新入会者 (計 二名)		75
				総頁 79
84	33.12.10	殖民 時報	殖民協会設立趣意書	1- 4
			[論説]	
			白露移民ノ現況	田中 貞吉
			露清ノ関係 (承前)	菅菊 太郎
			外人ニ土地所有ヲ許ス可カラズ	在木曜島佐藤虎次郎
			速カニ渡米禁止令ヲ解除スヘシ	鎌原 幸治
			[報告]	
			米国カリフォルニア州視察報告 (在桑港帝国領事館報告)	24- 42
			[史料]	
			英領殖民地錫蘭島歴史的地理 (承前)	鎌原 幸治
			万延年間幕使航米日録 (其六)	45- 48
			[海事]	
			八幡船 (明末の倭寇)	足立 栗園
			[紀行]	
			墨国チャパス州古代遺跡探検紀行 (其一)	53- 56
			在墨国エス、エフ生	
			朝鮮紀行 (承前)	国島 光方
				56- 63

			〔公文〕 南米ブラジル国移民条例(完)	63- 67 総頁 71
85	34.01.22	殖民 時報	殖民協会趣意書 〔論説〕 殖民ノ前途 鎌原 幸治 1- 3 露清ノ関係(承前) 菅 菊太郎 4- 10 吾人ノ殖民観 津田 五郎 11- 17 西比利亞及び滿洲ニ於ケル日本人(第八十三号接続) 松島 宗衛 17- 22 ○ニコライフスクニ於ケル日本人 ○イマンニ於ケル日本人 ○ノラキフスクニ於ケル日本人 ○薩吟連ニ於ケル日本人 ○ニコリスクニ於ケル日本人 ○ハバロフスクニ於ケル日本人 〔通信〕 濠洲木曜島短信(十二月七日発) 田原 三治 23- 24 〔報告〕 本邦移民調査報告(外務省通商局) 24- 28 〔史料〕 英領殖民地錫蘭島歴史的地理(承前) 鎌原 幸治 28- 30 万延年間幕使航米日録(其七) 30- 34 サンフランシスコの風俗 其氣候 其貨幣と物価 其旅館 ネビヤード、メールス、アイランドの形勢 〔海事〕 八幡船(明末の倭寇) 足立 栗園 34- 38 〔紀行〕 六箇月間世界周遊記(第八十三号接続) 松原 栄 38- 42 其三(香港の觀察) 其四(新嘉坡の觀察) 其五(彼南の觀察) 朝鮮紀行(完) 国島 光方 42- 51 〔公文〕 外国船舶検査規則(明治二十三年十二月二十七日公布勅令第四百十四号) 51- 52 総頁 56	
86	34.03.10	殖民 時報	殖民協会趣意書 〔論説〕 南阿ノ善後策 鎌原 幸治 1- 4	

榎本武揚と殖民協会(1) (角山)

285

			殖民政策ノ一変	佐藤虎次郎	4- 6
			露清ノ関係 (承前)	菅 菊太郎	6- 9
			吾人ノ殖民観 (承前)	津田 五郎	9- 27
			[報告]		
			南米ブラジル国帰化法 (在伯帝国公使館報告)		28- 29
			仏領マダガスカル島外人移住ニ関スル規定摘要 (在里昂帝国領事館報告)		29- 30
			[史料]		
			万延年間幕使航米日録 (其八)		30- 34
			[海事]		
			八幡船 (明末の倭寇)	足立 栗園	34- 39
			[紀行]		
			墨国チャパス州古代移籍探検紀行 (其二)		
				在墨国 エス, エフ生	39- 43
			六箇月間世界周遊記 (承前)	松原 栄	43- 47
			其六 (古倫母港の観察)		
			其七 (錫蘭島の観察)		
			[公文]		
			米清移民通商条約 (一八八〇年)		48- 49
			[本会記事]		50- 51
			寄贈書目		
			新入会者 (計 六名)		
					総頁 55
87	34.05.25	殖民 時報	殖民協会趣意書		1- 4
			[論説]		
			露国ノ殖民	鎌原 幸治	1- 2
			我人ノ殖民観 (承前)	津田 五郎	3- 12
			[報告]		
			亞爾然丁国移民及殖民に関する事情報告 (在伯国帝国公使館報告)		13- 24
			[海事]		
			八幡船 (明末の倭寇)	足立 栗園	25- 29
			其十 長江沿岸の防備 (付たり東洋中古の海軍)		
			[紀行]		
			墨国チャパス州古代移籍探検紀行 (其三)		
				在墨国 エス, エフ生	29- 33
			六箇月間世界周遊記	松原 栄	33- 38
			其八 (船中所見と馬耳塞)		
			[公文]		
			移民保護法ノ改正		
			[本会記事]		39- 40
			寄贈書目		
			新入会者 (計 十二名)		
					総頁 44

88	34.08.25	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 (論説) 鎌原評議員ノ行ヲ送ル 津田 五郎 露国ノ対極東政策及露清特別關係 (一) 露国ノ極東ニ開展セサルヘカラス理由 4- 11 (二) 西比利亞鉄道ニ伴ヒ極東ニ於ケル露国ノ開展 (三) 極東ニ於ケル露国ノ希望露国ノ極東遷都 吾人ノ殖民觀(四) 津田 五郎 11- 25 布哇移民事業ノ善後策 室田 義文 25- 30 (報告) 亜爾然丁交通ニ関スル報告(在伯国帝国公使館報告) 31- 36 (海事) 八幡船(明末の倭寇) 足立 栗園 36- 41 (史料) 英領殖民地錫蘭島歴史的地理 鎌原 幸治 41- 43 (本会記事) 43- 44 寄贈書目 新入会者(計 三名)	1- 4 1- 4 4- 11 11- 25 25- 30 31- 36 36- 41 41- 43 43- 44 総頁 44
89	34.09.10	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 (論説) 独逸ノ対伯拉爾策 津田 五郎 露国ノ極東政策及露清特別關係(承前) 1- 5 (四) 清国ハ当初何故ニ露国ヲ疎ンシ英国ニ親シミタル カ 6- 19 (五) 清国ハ輓近何故ニ英国ヲ疎ンシ露国ニ親シミタル ヤ (六) 露清和親ヲ致スヘキ因由(血族ノ關係) (七) 露清和親ヲ致スベキ因由ニ(歴史上ノ關係) (八) 露国ノ対清政策如何 吾人ノ殖民觀(五) 津田 五郎 19- 28 (報告) 亜爾然丁国財政に関する報告(在伯国帝国公使館報告) 29- 35 (通信) 独逸殖民協会記事 在独グッテンゲン・ハーテー生 35- 36 (内外要報) 36- 40 海外渡航の本邦移民 一伊多利亞爾然丁殖民協会 一独逸殖民会議 一露人の濠洲移住 一亜爾然丁移住に関する英国領事の注意 (本会記事) 40- 41 寄贈書目	1- 4 1- 5 6- 19 19- 28 29- 35 35- 36 36- 40 40- 41

				新入会者 (計 二名)	総頁 45
90	34.11.10	殖民	時報	殖民協会設立趣意書 (論説) 所謂有色労働者問題ノ真相如何 津田 五郎 1- 6 國際的仲買貿易ノ前途ト經濟單位ノ拡張 三浦 新七 6- 11 人類ノ移住ハ如何ニシテ起リタル乎 丹羽 四郎 12- 16 吾人ノ殖民觀 (六) 津田 五郎 16- 25 (報告) 伊国海外移民の景況 (在伊帝国公使館報告) 26- 28 (通信) 「グラスコー」に於ける英国經濟会々頭サー、ロバート、 ギッフエン氏の人口統計に関する演説記事 在英 S K 生 28- 32 (史料) 英領殖民地錫蘭島歴史的地理 (承前) 鎌原 幸治 33- 36 (内外雜報) 37- 43 外国旅行券下付方の改正 移民会社保証金の増加 クインスランド州出入本邦人員数 米国に於ける日清人 英領哥倫比亞本邦移民制限の解除 濠洲移民排斥方の成行 本邦移民の渡米協商 布哇移民に関する訓令 布哇労働界に於ける一大革新の計画 南米移民の大勢 南米戦争の一原因 南亜非利加の殖民 自明治卅三年一月至同年十二月殖民協会収支計算書 44- 45 (本会記事) 新入会者 (計 七名)	総頁 49
91	34.12.28	殖民	時報	殖民協会設立趣意書 (論説) 全米公会 在墨国 鎌原 幸治 1- 10 濠洲ニ就テ H M 生 10- 14 (報告) 南米秘露国産業事情 (在里馬帝国名誉領事館報告) 15- 34 第一章 秘露国税関略史 第二章 秘露国に適用すべき經濟上の政策に就て 第三章 農業に関する保護 第四章 鉱業に関する保護	

			〔通信〕 布哇通信 〔史料〕 英領殖民地錫蘭島歴史的地理(承前) 鎌原 幸治 〔内外雑報〕 移民保護法の改正 布哇日本人会の成立 米国の移住民 現在移民取扱業者(十二月調査) 渡米者の注意 清韓各地在留本邦人数(九月調査) 加奈太在留本邦人数(八月調査) 〔本会記事〕 寄贈書目 新入会者〔計 一名〕	34 35- 37 37- 39 40
				総頁 44
92	35.01.28	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 〔論説〕 墨国談 鎌原 幸治演述・川守田武一速記 濠洲ニ就テ(承前) H M 生 〔報告〕 南米秘露国産業事情(承前) 第五章 秘露国を利用すべき産業 第六章 秘露国は如何にして其の富源を開発すへき乎 〔海事〕 八幡船(明末の倭寇)(第八十八号接続) 足立 栗園 〔本会記事〕 新入会者〔計十五名〕	1- 4 1- 25 26- 30 21- 45 46- 52 52
				総頁 56
93	35.03.10	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 〔論説〕 日英協約ト殖民問題 鎌原 幸治 支那問題ト殖民問題トノ関係ヲ論ズ(支那ノ開発ハ以テ 黄色人種ノ前程ヲトスベシ) 南米 太郎 濠洲ニ就テ(承前) H M 生 〔通信〕 倫敦通信 在英 蝦 蟻 生 〔報告〕 仏領ニュー, カレドニア島事情並本邦移民現況(在シド ニー帝國領事館報告) 第一 ニュー, カレドニア島の概観 第二 一般労働者 第三 本邦移民の労働地	1- 4 1- 4 4- 11 11- 18 19- 21

			〔海事〕 八幡船 (明末の倭寇) 足立 栗園 〔時論〕 殖民問題に関する近刊新聞の所説を紹介す 〔内外雑報〕 布哇移民増加の訓令 移民保護袍改正法律案の確定 濠洲移民排斥法の実施 独逸の殖民政策 九州移民会社の總會 利益金分配案 布哇日本労働者取扱所 布哇渡航家族の注意 濠洲の「カナカ」排斥 新移民会社の成立 布哇行移民と山陽鉄道 米国の支那人排斥法案 在米支那人の反抗 ルーズベルト大統領とブライアン氏 浦塩港日本居留民会の設立 露領漁業規則の改正 紐育在留本邦人の近況	33- 37 37- 43 44- 52
				総頁 56
94	35.04.15	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 蘭領爪哇ニ於ケル殖民制度一斑 鎌原 幸治 濠洲ニ就テ (承前) H M 生 英領印度ヨリノ移民 金子 生 〔通信〕 墨府短信 (二月廿四日) 土屋 謹吾 〔報告〕 マニラ市事情 (在麻府帝国領事館報告) 〔海事〕 八幡船 (明末の倭寇) (承前) 足立 栗園 〔内外雑報〕 ○濠洲移民制限に付外務省の訓示 ○加拿陀と本邦移民 ○露政府の通牒 ○大石代議士に対する政府の答弁 ○太平洋方面に於ける日本人排斥に関する根本代議士の質問 ○布哇に於ける輸入商の恐慌 ○伊太利の人口及び其繁殖の割合 ○独逸の移民奨励 ○布哇移民の送金	1- 4 1- 4 4- 8 8- 11 12- 13 13- 14 14- 17 18- 28

				<ul style="list-style-type: none"> <li>○桑港商業會議所支那排斥に反対す</li> <li>○独逸の殖民と其費用</li> <li>○米国の移民</li> <li>○布哇の日本陸稻種試作</li> <li>○米國シヤトルの近況(実業新聞)</li> <li>○加奈陀人口の移動</li> <li>○移民取扱業者の増加</li> <li>○露國の滿洲の移民</li> <li>○白人の濠洲</li> <li>○新移民会社の設立</li> <li>○在布哇本邦人及び其輸出入額</li> <li>○上海在留本邦人の職業區別</li> <li>○清韓各地一月末在留本邦人員の數 〔本会記事〕</li> </ul>	28- 29
			寄贈書目		
				総頁 33	
95	35.05.25	殖民 時報	殖民協會設立趣意書 〔論說〕 濠洲移民制限法ト「ナタル」移民制限法ノ比較 鎌原 幸治 1- 6 芳川通相ノ演說 鎌原 幸治 6- 9 濠洲ニ就テ(承前) H M 生 9- 12 〔講談〕 失敗の半生 杉山 源作 13- 18 〔通信〕 「クインスランド」通信 エス、エス生 18- 19 〔報告〕 北米「シヤトル」在留本邦人狀況(在シヤトル帝國領事館報告) 〔海事〕 八幡船(明末の倭寇) 足立 栗園 22- 26 〔内外雜報〕 ○布哇行移民の訓令 ○濠洲行移民に関する訓令 ○濠洲日本移民問題 ○移民会社の大集会 ○加奈陀在留本邦漁業者の送金高 ○清國の人口 ○独逸の移住民 ○布哇在留本邦労働者の不都合 ○布哇に於ける日本医師 ○濠洲の真珠貝採集禁止 ○英國の移民數 ○米國行移民の増加	1- 4	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○清人排斥法案の運命</li> <li>○清韓各地二月末在留本邦人の員数</li> <li>○各国駐在帝国領事</li> <li>○内外貨幣度量衡比較表</li> </ul>	総頁 40
96	35.06.25	殖民 時報	<p>殖民協会設立趣意書 〔論説〕</p> <p>米国ニ於ケル支那人 <span style="float: right;">鎌原 幸治</span></p> <p>濠洲ニ於ケル移住制限法ニ就テ <span style="float: right;">村上 祐</span></p> <p>〔講談〕</p> <p>失敗の半生 (承前) <span style="float: right;">杉山 源作</span></p> <p>木曜島</p> <p>予の医者の境遇</p> <p>予の濠洲に於ける失望</p> <p>日本人排斥熱の発生</p> <p>真珠貝海參漁業改正案及日本移住民制限法</p> <p>移住民制限法 of 精神</p> <p>移住民制限法実施の状況</p> <p>日清戦争の日本</p> <p>〔伝記〕</p> <p>南亞怪傑「センル、ローズ」 <span style="float: right;">H M 生</span></p> <p>〔報告〕</p> <p>墨国エスペランサス炭鉱地方視察報告 (在墨国公使館報告)</p> <p>〔海事〕</p> <p>八幡船 (明末の倭寇) <span style="float: right;">足立 栗園</span></p> <p>〔内外雑報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○後藤台湾民政長官の海外行</li> <li>○米国行移民の許可</li> <li>○加奈陀行移民の許可運動</li> <li>○「マニラ」我労働移民を望む</li> <li>○外務当局者と濠洲移民</li> <li>○「ハルピン」地方に於ける日本人の優勢</li> <li>○海外旅券下付数</li> <li>○広島県出稼移民の送金高</li> <li>○愛蘭の移住民</li> <li>○露領に於ける清国労働者</li> <li>○露国の西比利亜移民奨励法</li> <li>○米国行下等船賃引上</li> <li>○本邦人の薩哈噠漁業</li> <li>○「マダカスカル」島清人移住の失敗</li> <li>○布哇焼払要償の判定</li> <li>○英社の媾和</li> <li>○福建省清人の出稼</li> </ul>	<p>1- 4</p> <p>1- 5</p> <p>5- 10</p> <p>11- 18</p> <p>19- 25</p> <p>25- 45</p> <p>45- 49</p> <p>49- 55</p>



				[本会記事]	34
					総頁 38
99	35.09.25	殖民	時報	殖民協会設立趣意書 〔論説〕 経済側面ヨリ見タル台湾ノ領有 鎌原 幸治 移民会社 ケイ, ケイ生 〔談叢〕 殖民瑣話 天 民 生 〔通信〕 仏国通信 南仏「イゼール」の上流に於て南米 太郎 〔報告〕 露領浦塩港在留本邦人の送金額 (在浦塩斯德帝国貿易事務官報告) 〔海事〕 八幡船 (明末の倭寇) 足立 栗園 〔内外雑報〕 ○英領加奈陀の移民制限法に就て我外務大臣の抗議 ○移民取扱手数料に付新潟警察部の通達 ○南鳥島の領有 ○鳥島の噴火 ○全国移民会社の総会 ○布哇移民の開始 ○南阿移民の計画 ○齊藤修一郎移民会社を起さむとす ○加奈陀の移住民 ○在「マニラ」本邦人数 ○濠洲の日本移民制限法とチャンパレーン氏 ○伊国「ブラジル」の移民を差止む ○木曜島に於ける日本人 ○日本殖民会社の設立 ○昨年度に於ける米国の移民 ○「マニラ」労働者の奮起 ○白露移民の現状 ○布哇近況 ○マニラ在留日本人 ○桑港の昨今 ○布哇に於ける本邦商と移民会社の一致 ○南阿出稼人の情況 ○「カリホルニヤ」州に於ける日本人農業一斑 (一) 過去の経歴 (二) 出稼者と定住の覚悟 (三) 加州農園の小作法 (四) 小作人の増加と下受人 (五) 加州の要する労働者	1- 4 1- 3 3- 5 6- 8 8- 10 11- 14 15- 18 18- 35

			寄贈書目	35- 36 総頁 40
100	35.11.25	殖民 時報	殖民協会設立趣意書 (論説) 濠洲殖民地制度一斑(第九十八号接続, 未完) 村上 祐 労働者の保護 移民局設置ノ必要 衫 袴 生 (報告) 濠洲北部採貝業に関する同州調査委員報告概要(在シド ニー帝国総領事館報告) [海事] 八幡船(明末の倭寇) 足立 栗園 海事と宗教 山 陰 生 [内外雑報] ○南島島遠征船訴らる ○北米南部移住の好望 ○韓国住と土地所有権 ○米国に於ける日本鉄道工夫の需用 ○移民制限の悪結果 ○職工の渡来 [本会記事] 寄附書目	1- 4 1- 17 17- 19 19- 25 26- 29 29- 32 32- 37 37 総頁 41

- [註] 1. 掲載の目次と内容の題目との間が異なるので、ここでは題目によることにした。  
 2. 100号で、すべての記事が完了しているのではなく、一部の記事には(未完)としているものがあるので、これ以後も、継続して発行する予定であったのかも知れない。  
 3. 『殖民協会報告』の目次には、『殖民協会報告』解説・総目次・索引(不二出版 1987年2月10日)があるが、目次を検討するには不適當であるので改めて集計をした。